



SW1000XG

P C I A U D I O M I D I C A R D



取 扱 説 明 書

安全上のご注意 ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表示について

⚠ 記号は、危険、警告または注意を示します。

⊘ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

*お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 警告 この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。

⊘ サウンドカード上の基盤部分やコネクター部に無理な力を加えたり、部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、または故障などの原因になります。

⚠ サウンドカードを取り付ける前に、必ずコンピューターの電源プラグを抜く。
電源を接続したまま取り付けるを行うと、感電の原因になります。

⚠ 注意 この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

⚠ サウンドカードを持つときは、前もって他の金属に触れるなどして、静電気が起きないように注意する。
静電気が発生すると、カードの故障の原因になります。

⊘ テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。

⚠ 他の機器と接続する場合は、全ての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。
感電または機器の損傷のおそれがあります。

⊘ 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

⊘ 直射日光の当たる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が暖かくなるところ、逆に温度が極端に低いところ、極端に湿度の高いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。
内部の部品が故障する原因となります。

⚠ 作成したデータはこまめにフロッピーディスクに保存する。
作成したデータは、故障や誤動作などのために失われることがあります。大切なデータは、必ずフロッピーディスクに保存することをおすすめします。

不適切な使用や改造により故障した場合の保障はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保障は致しかねますので、ご了承下さい。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協会(VCCI)の基準に基づく第二種情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

・この取扱説明書に掲載されている会社名及び商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。



音のエチケット

「音楽を楽しむエチケット」

「楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

*これは日本電子工業会『音のエチケット』キャンペーンのマークです。

はじめに

このたびは、ヤマハSW1000XGをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
このパッケージには、ハイクオリティなXGサウンド/充実したデジタルオーディオ環境を提供するサウンドカードと、それを活かして高度な音楽制作を実現するためのさまざまなアプリケーションソフトウェアが含まれています。SW1000XGによってMIDI+オーディオによる音楽制作環境をコンピュータ内部に構築することができるので、CD制作のマスタリングまでをコンピュータ上で行うといったこともできます。
SW1000XGをお使いいただくために、まず本書をご活用いただきますようご案内申し上げます。
また、ご一読いただいた後も不明な点が生じた場合に備え、取扱説明書を大切に保管いただきますようお願い申し上げます。

ご注意

本製品および取扱説明書の著作権はすべてヤマハ株式会社所有します。

本製品および取扱説明書の一部または全部を無断で複製、改変することはできません。

本製品および取扱説明書を運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。

本製品に付属のCD-ROMは、オーディオ用ではありません。一般のオーディオ用CDプレーヤーでは絶対に使用しないでください。

市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。

この取扱説明書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

この取扱説明書に掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合がありますので、ご了承ください。

アプリケーションのバージョンアップなどに伴うシステムソフトウェアおよび一部の機能や仕様の変更については、別紙または別冊で対応させていただきます。

基本的なWindowsの操作

この取扱説明書は、お客様がWindowsの基本的な操作についてご理解いただいていることを前提に説明しています。Windowsの操作に関することはWindows付属の取扱説明書をご参照ください。

マウス操作の表記について

クリック

ボタンを1回押して放すことを表します。特に左右ボタンについて記述されていないときは、左ボタンを1回押して放すことを表します。

ダブルクリック

ボタンをすばやく2回押して放すことを表します。特に左右ボタンについて記述されていないときは、左ボタンをすばやく2回押して放すことを表します。

ドラッグ

ボタンを押したままマウスポインタを別の位置まで移動して、放すことを表します。特に左右ボタンについて記述されていないときは、左ボタンを押したままマウスポインタを別の位置まで移動して、放すことを表します。

SW1000XGの特長

AWMウェーブテーブル

AWM2(Advanced Wave Memory 2)音源を使用した、1267ノーマルボイス&46ドラムキットを持つ高音質の32パート/64音ボリ(最大同時発音数)ウェーブテーブルを搭載しています。音源のクオリティは、DTM音源の中でもトップクラスである弊社のトーンジェネレーターMU100に匹敵します。

充実したエフェクト

リバーブ(12タイプ)、コーラス(14タイプ)、バリエーション(70タイプ)、インサージョン1/2(43タイプ/43タイプ)、5バンドマルチEQ(4タイプ)の6種類のエフェクトブロックを装備しています。アンサンブル全体の効果だけでなく、楽器パートごとの細かいエフェクト設定も可能ですので、SW1000XGサウンドカード単体で、凝ったエフェクト処理を行うことができます。内蔵音源だけでなく、ウェーブデータ(デジタルオーディオ)やマイク入力などの外部オーディオソースに対してエフェクトをかけることもできます。

GM/XG対応

GM規格や、GMを拡張したヤマハのXGフォーマットに対応していますので、市販のGM曲集やXG曲集をハイクオリティなサウンドでお楽しみになれます。

GMとは 

GMとはGeneral MIDI(GMシステムレベル1)の略で音色配列などを標準音源の仕様として規定したものです。MIDIファイルを異なる音源を使って再生させても、大体の互換性が保てるようにとの目的で考案されました。GM規格では、16個の各チャンネルごとに128種類のGM音色の中から好きなプログラムチェンジ(音色ナンバー)をアサインできるようになっています(10チャンネルはドラム音色用に規定されています)。

XGとは 

XGとはヤマハによって考案された音源フォーマットで、音色数やエディット方式、エフェクトに関するパラメーターなどを規定し、GM規格を大幅に拡張したものです。時代とともに複雑化、高度化していくコンピュータ周辺環境にも対応させ、豊かな表現力とデータの継続性によりコンピュータミュージックでの使用感を向上させています。

MIDIインターフェース機能

付属のMIDIアダプターケーブルを使って、外部MIDIキーボードや他のMIDI機器との接続が可能です。

XGプラグインボードによる機能拡張

XGプラグインシステムに対応したオプションのプラグインボード(PLG100シリーズ)をSW1000XGサウンドカードに接続することにより、サウンドカードに標準装備されているAWM2音源にVL(物理モデル)音源を付加するなど、音源の機能を拡張することができます。

デジタルオーディオ(ウェーブ)の録音/再生

ステレオ×6本のウェーブ再生デバイスと、ステレオ×2本のウェーブ録音デバイス(外部オーディオ入力(A/Dインプット)のみ×1本と、外部オーディオ入力(A/Dインプット)+AWM2音源のサウンド+シーケンスソフトのウェーブトラックのサウンドのミックス×1本の、計2本)を搭載しています。

付属のアプリケーションソフト「XGworks for SW1000XG」を使えば、複数のウェーブトラックのデータをSW1000XGサウンドカードのオーディオパート(最大12パート)に送り、各パートごとにエフェクト処理して同時再生することが可能です。

MIDIトラック(またはMIDI+ウェーブトラック)の再生に合わせてMic/Line入力をウェーブトラックに録音することもできます(ステレオでもモノラルでも可能)ので、SW1000XGのAWM2音源の演奏をバックにボーカルなどを多重録音することも簡単にできます。

こうして制作されたソングの、すべてのMIDIトラックとウェーブトラックを同時再生し、その出力をまとめてウェーブトラックに録音することにより、ソングの全トラックをオーディオデータとして一本化してマスタリングすることができます。マスタリングされたオーディオのデータは、CD-Rに書き込むファイルとして利用することができます。

デジタル出力

ステレオデジタルアウト(S/PDIF)を標準装備しています。また、オプションのデジタルミキシングカード(DS2416)を接続すると、1組のステレオアウトプットと6本のインディデュアルアウトプットをSW1000XGからDS2416にデジタル出力することができますので、外部デジタルミキサーを用意しなくても、パソコンの中でデジタルミキシングまでの一連の音楽制作を完結させることができます。

さまざまな付属アプリケーション

SW1000XGの優れた機能を最大限に活用できる専用のオーディオ&MIDIシーケンスソフト「XGworks for SW1000XG」をはじめ、波形編集ソフトなど、数々のソフトウェアが付属しています。

目次

はじめに	4
ご注意	4
基本的なWindowsの操作	4
SW1000XGの特長	5
ご使用の前に	8
パッケージの内容	8
パッケージ以外に必要なもの	8
付属ソフトウェアのご紹介	9
ユーザーサポートサービス	11
SW1000XGサウンドカードの接続	13
各端子の説明	13
サウンドカードの取り付け	14
プラグインボードの取り付け	16
デジタルミキシングカードの取り付け	16
ドライバのインストール	17
OSR2の場合	17
OSR2以前のWindows95の場合	19
ソフトウェアのインストール	20
XGworks for SW1000XGおよびWave Editor TWEのインストール	20
XGプラグインソフトのインストール	22
SW1000XGの構成と機能	25
演奏モード	25
ボイス	25
ボイスの選択	26
システムエフェクトとインサージョンエフェクト	26
5バンドマルチコライザー	26
A/Dインプット	27
プラグインシステムについて	27
XGworks V2.0の補足事項	28
複数ウェーブの同時再生および途中からの再生が可能	28
システムセットアップダイアログ	28
トラックビューウィンドウ	30
XGエディターウィンドウ	31
ソングの中にウェーブデータも保存可能	33
Wave Editor TWEを開く	33
SW1000XG Mixer	34
SW1000XGサウンドカード仕様	41
MIDIインプリメンテーションチャート	42
故障かな?と思ったら	44

*この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の仕様と異なる場合がありますので、ご了承ください。

ご使用前に

パッケージの内容

まず、SW1000XGをご使用になる前に、パッケージの内容をご確認ください(万一付属品に不足がある場合は、すぐに購入店までご連絡ください)。

SW1000XGサウンドカード

- ・MIDIアダプターケーブル (1本)
- ・プラグインボード接続ケーブル (1本)
- ・プラグインボード用スペーサー (4つ)

CD-ROM

取扱説明書(本書)

XGworks V2.0取扱説明書

ユーザー登録カード

パッケージ以外に必要なもの

SW1000XGサウンドカードおよび付属のソフトウェアをお使いいただくには、以下のハードウェアおよびソフトウェアが必要です。

コンピューター式	CPU/メモリ	Pentium/166MHz以上のCPUを内蔵し、増設メモリも含めて32MB以上のメモリを搭載したパーソナルコンピュータが必要です。
	ハードディスク	SW1000XG付属のソフトウェアを使用するためには、ソフトウェアやドライバをインストールする必要があります。インストールし、ご活用いただくためには、ハードディスクに約20MB以上の空容量が必要です。
	CD-ROMドライブ	付属のソフトウェアはすべて同梱のCD-ROMに含まれています。ソフトウェアをインストールしたり、デモ曲のファイルを読み込むためには、CD-ROMドライブが必要です。
	マウス	ソフトウェアの操作は主にマウスで行います。
	PCI拡張スロット	サウンドカードを取り付けるには、PCI拡張スロットに空きスロットが必要です。
	オペレーティングシステム	Windows95が必要です。

お使いのコンピュータのOS(Windows95)がOSR2以上の場合、IRQの共有が可能です。それ以前のWindows95ではIRQの共有ができないため、他のボードとの競合が発生し、インストールできない可能性があります。その場合、IRQの設定を変えるか、競合しているボードを外してください。

NOTE マイコンコンピュータ コントロールパネル システムのプロパティの「情報」ページに記載されている「システム」の数字(Windows95のバージョン)が4.00.950 Bと表示されている場合はOSR2、4.00.950または4.00.950 Aと表示されている場合はそれ以前のWindows95です。

付属ソフトウェアのご紹介

本パッケージには、以下のソフトウェアが付属しています。各ソフトのインストール方法については、本書20ページ「ソフトウェアのインストール」をご参照ください。

・XGworks (エクスジークス) for SW1000XG

Windows95用MIDIシーケンスソフトです。MIDIデータの入力/編集のほか、デジタルオーディオ録音や、XGエディターによるXGボイスのエディットも簡単にできるので、高度な音楽制作をお楽しみいただくことができます。詳しい使用方法については、同梱のXGworks V2.0取扱説明書をご参照ください。

なお、本パッケージに付属のXGworksはSW1000XGサウンドカード専用開発されたアップグレード版なので、いくつか補足事項がございます。本書28ページもあわせてご参照ください。

・Wave Editor TWE (ウェーブエディター-TWE)

XGworksのWAVEトラックに録音されたウェーブファイル(拡張子.wav)の波形データを、エディットすることができるソフトです。ウェーブエディター-TWE上でウェーブ録音することも可能です。詳しい使用方法については、インストール後、Windows95の[スタート]メニュー [プログラム(P)] [YAMAHA XGworks for SW1000XG]から[Wave Editor TWE取扱説明書]を選択すると開く、オンラインマニュアル(PDFファイル)をご参照ください。

NOTE PDFファイルをご覧になるためには、あらかじめAcrobat Reader (アクロバットリーダー) をインストールしておく必要があります。Acrobat Readerをインストールするには、本パッケージに付属のCD-ROMの中にAcrobatフォルダがありますので、そこに入っているar32j30a.exe をダブルクリックしてください。

Acrobat® Reader copyright© 1987 - 1996 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.
AdobeおよびAcrobatはアドビシステムズ社の商標です。

NOTE Wave Editor TWE自体は、拡張子.wavのウェーブファイルのほか、AIFFファイルも扱えますが、XGworks上ではAIFFファイルは扱えません。

・SG Lyric Editor (SGリリックエディター)

別売プラグインボードPLG100-SG(P.27)の歌詞作成ソフトです。詳しい使用方法については、インストール後、XGworks上でSGリリックエディターを起動し、[ヘルプ(H)]メニュー [目次(C)]を選択すると開くオンラインヘルプをご参照ください。

・SG Easy Editor (SGイージーエディター)

別売プラグインボードPLG100-SG(P.27)のボーカル音声エディットソフトです。詳しい使用方法については、インストール後、XGworks上でSGイージーエディターを起動し、[ヘルプ(H)]メニュー [目次(C)]を選択すると開くオンラインヘルプをご参照ください。

・VL Visual Editor (VLビジュアルエディター)

別売プラグインボードPLG100-VL(P.27)のエディターソフトです。詳しい使用方法については、インストール後、XGworks上でVLビジュアルエディターを起動し、[ヘルプ(H)]メニュー [目次(C)]を選択すると開くオンラインヘルプをご参照ください。

・VH Effect Editor (VHエフェクトエディター)

別売プラグインボードPLG100-VH(P.27)のエディターソフトです。詳しい使用方法については、インストール後、XGworks上でVHエフェクトエディターを起動し、[ヘルプ(H)]メニュー [目次(C)]を選択すると開くオンラインヘルプをご参照ください。

・DX Easy Editor (DXイージーエディター)

別売プラグインボードPLG100-DX(P.27)の簡易エディターソフトです。詳しい使用方法については、インストール後、XGworks上でDXイージーエディターを起動し、[ヘルプ(H)]メニュー [目次(C)]を選択すると開くオンラインヘルプをご参照ください。

• DX Simulator (DXシミュレーター)

別売プラグインボードPLG100-DX(P.27)のエディターソフトです。名機DX7とまったく同じユーザーインターフェースで、細かな音づくりが可能です。詳しい使用方法については、インストール後XGworks上でDXシミュレーターを起動し、[ヘルプ(H)]メニュー [目次(C)]を選択すると開くオンラインヘルプをご参照ください。

• Auto Play (オートプレイ)

XGworks上で、MIDIファイルを連続再生させるためのソフトです。MIDIファイルに歌詞が入力されている場合は、再生中に歌詞を表示することもできます。詳しい使用方法については、インストール後、XGworks上でオートプレイを起動し、[ヘルプ(H)]メニュー [目次(C)]を選択すると開くオンラインヘルプをご参照ください。

• SW1000XG Windows95 Driver

SW1000XGサウンドカードを使って音を出すために必要な、ドライバソフトです。インストール方法については17ページをご参照ください。

• SW1000XGデモ曲

SW1000XGサウンドカードの高度な表現力をお楽しみいただけるデモソングです。MIDI+ オーディオのソングデータなので、XGworks for SW1000XGで再生してお楽しみいただけます。付属CD-ROMの中の「Demo」フォルダに収められています。

NOTE このパッケージには、MIDI+ オーディオのソングデータ(SW1000XGデモソング)の他に、スタンダードMIDIファイルのデモ曲も用意されています。これらのスタンダードMIDIファイルは、XGworks for SW1000XGをインストールすると、一緒にインストールされます。

• SW1000XGデータリスト

SW1000XGサウンドカードのボイスリストやエフェクト関連資料、MIDIデータフォーマットをPDFファイル形式でご覧いただくことができます。付属CD-ROMの中の「Document」フォルダに「Data_J.pdf」というファイル名で収められています。

NOTE PDFファイルをご覧になるためには、あらかじめAcrobat Reader (アクロバットリーダー) をインストールしておく必要があります。Acrobat Readerをインストールするには、本パッケージに付属のCD-ROMの中にAcrobatフォルダがありますので、そこに入っているar32j30a.exe をダブルクリックしてください。

Acrobat® Reader copyright© 1987 - 1996 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.
AdobeおよびAcrobatはアドビシステムズ社の商標です。

ユーザーサポートサービス

- ・以下のサポートは「ユーザー登録手続き」を完了された方に限り行わせていただきますので、下記「ユーザー登録のご案内」にしたがって、必ず「ユーザー登録手続き」を済ませてください。
- ・別冊「XGworks V2.0取扱説明書」にも「ユーザーサポートサービス」というページがありますが(7ページ)、本パッケージでのユーザーサポートについては、下記をお読みください。

ユーザー登録のご案内

弊社では、ユーザーの方々をサポートし、関連情報をご提供するために、SW1000XGをご購入いただいたお客様を登録させていただきます。

つきましては、お手数とは存じますが、製品に同梱しております「ユーザー登録カード」に(製造番号シールを貼り付け)必要事項をご記入の上、至急ご返送くださいますようお願い申し上げます。弊社にてお客様の登録を行い、折り返しユーザーID番号をご案内致します。

ユーザーサポートサービスのご案内

サービスの種類によっては、CD-ROMの返送が必要になりますが、その際お送りいただいたCD-ROMが弊社製品と確認できない場合、修復のサービスはお受けになれません。あらかじめご了承ください。

無償サポートサービスについて

1. ご購入時に正常に動作しないCD-ROMの修復

製品には万全を期しておりますが、万一SW1000XGのCD-ROMに記録されたプログラムなどの内容が、ご購入時にすでに破壊や欠損を起こしていたために正常に動作しない場合、CD-ROMの内容を修復(交換またはフロッピーによる修復)いたします。下記の「CD-ROM修復のお申し込み方法」にしたがってお申し込みください。

*「ご購入時」とは、製品をお求めいただいてから14日以内とさせていただきます。

*お送りになる前に、お送りいただく旨を、必ず下記の「CBXインフォメーションセンター」まで電話でご連絡ください。

CD-ROM修復のお申し込み方法

1. 修復に必要なCD-ROMのほかに、「ユーザー登録用カード」に必要事項(ご住所、お名前、電話番号)をご記入の上、「動作の状態」などを明記した文書をご同封ください。宛先は下記の「CBXインフォメーションセンター」です。
2. 返送の途中でCD-ROMが破損しないように十分注意して包装してください(返送の途中でCD-ROMが破損または紛失した場合、弊社では責任を負いかねます)。
3. ご返送には、郵便書留か宅配便をご利用ください(宅配便の場合は、着払(弊社負担)をご利用いただけます)。

2. 質問の受付

「ユーザー登録手続き」を完了された方に限り、SW1000XGの使用法や関連情報などについて、電話やお手紙による質問をお受けいたします。下記の「CBXインフォメーションセンター」までお問い合わせください。

お問い合わせの際には、「製品名」、「ユーザーID番号」、「ご住所」、「お名前」、「電話番号」を必ずご明示ください。また、「ご使用のパソコンの種類」、「操作の手順やそれによる結果と状態」、「入力されたデータの内容」なども詳しくお知らせください。お客様からの情報が不足している場合は、ご返事できない場合があります。

CBXインフォメーションセンター

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1
ヤマハ(株)CBXインフォメーションセンター
TEL: 053-460-1667

受付日 月曜日～金曜日(祝祭日およびセンターの休業日を除く)
受付時間 10:00～12:00/13:00～17:00

*ユーザーサポートサービスは日本国内においてのみ有効です。

住所/氏名の変更(同一使用者の範囲内)

ご登録いただいた「ご住所」、「お名前」などを変更された場合は、「製品名」、「ユーザーID番号」、「旧住所/旧氏名」、「新住所/新氏名」を明示の上、ご面倒でもCBXインフォメーションセンターまで郵便でご通知ください。折り返し新住所/新氏名が記載されたユーザーID番号を郵送させていただきます。

有償サポートサービスについて

1. 有償サポートサービスの内容

お客様が使用中にSW1000XGのCD-ROMを破損された場合、有償でCD-ROMの内容を購入時と同等に修復(交換またはフロッピーによる修復)いたします。必要事項をご記入の上、手数料(¥5,000:消費税込み)と破損したCD-ROMを添え「有償サポートサービスのお申し込み方法」にしたがってお申し込みください。

*有償サポートサービスの受付期間は、お客様が本製品をご購入後、一年以内とさせていただきます。

*お申し込みになる前に、必ずCBXインフォメーションセンターまで電話でご連絡ください。

2. 有償サポートサービスのお申し込み方法

CBXインフォメーションセンター宛に直接お申し込みください。

このサービスは、お買い上げの販売店では、受け付けておりません。

1. 下記の有償サポートサービスの「申込書」に必要事項をもれなくご記入の上、手数料とともに、CBXインフォメーションセンターまで現金書留にてお送りください。

*お客様からのCBXインフォメーションセンターへの送料は、お客様にてご負担ください。

2. CD-ROMを送付される場合は、「ご住所」、「お名前」、「電話番号」、「ユーザーID番号」を明記して、CBXインフォメーションセンターまで、郵便書留にてお送りください。なお、郵送の途中でCD-ROMが破損しないように、十分注意して包装してください。

*普通郵便などでお送りになられた際の事故につきましては、当社では責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

*必ずご登録いただいた「ご住所」、「お名前」でお申し込みください。

*お申し込みいただきましたCD-ROM(または修復データを収録したフロッピー)は、手数料の確認の後、登録されたご住所に発送いたします。お申し込み後、2週間過ぎても製品が届かない場合は、CBXインフォメーションセンターまでご連絡ください。

破損CD-ROMの修復申し込み

有償サポートサービスの「破損CD-ROMの修復」の申し込みをされる場合は、下の申込書をコピーしてご使用ください。

SW1000XG
破損CD-ROM修復申込書

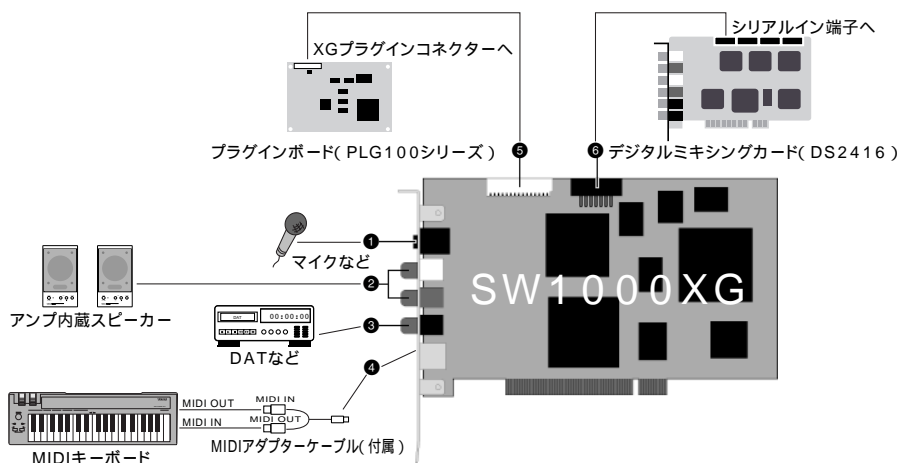
ご住所
お名前
電話番号
e-mailアドレス
ユーザーID番号
破損ディスク 「SW1000XG」CD-ROM

*破損CD-ROMの修復の手数料は、¥5,000(消費税込み)です。

SW1000XGサウンドカードの接続

各端子の説明

- ❶ サウンドカードを取り扱う前に、必ずアースされている金属の表面などに触れて、服や身体の静電気を取り除いてください。また、サウンドカードの基盤部部分やコネクタ部などに触れないようにご注意ください。



❶ 外部オーディオ入力(A/Dインプット)端子

マイクやギター、ベース、CDプレイヤーなどの外部機器から音声信号をステレオでライン入力します。ステレオミニジャックのケーブルで接続します。

❷ Line Out L/R(右/左)端子

音声信号をステレオで外部出力します。RCAピンジャックのケーブルで、オーディオ機器やミキサーなどと接続します。白がL(左)、赤がR(右)端子です。

❸ Digital Out 端子

音声信号をステレオでデジタル出力します。S/PDIFタイプのケーブルで、デジタルオーディオ機器やデジタル入力を持つミキサーなどと接続します。

❹ MINI DIN 6ピン端子

付属のMIDIアダプターケーブルを使って、外部MIDIキーボードなどを接続するための端子です。

❺ プラグインボード(PLG100シリーズ)接続コネクタ

XGプラグインシステムに対応した別売のプラグインボード(PLG100シリーズ)を接続します。SW1000XGに標準装備されているXG音源の機能を拡張することができます。

❻ デジタルミキシングカード(DS2416)接続コネクタ

別売のデジタルミキシングカード(DS2416)を接続します。ヤマハデジタルミキサーO2R相当のデジタルミキシングカードに対して、SW1000XGから1組のステレオアウトプットと6本のインディビジュアルアウトプットを出力することができますので、外部デジタルミキサーを用意しなくても、パソコンの中でデジタルミキシングまでの一連の音楽制作を完結させることができます。

サウンドカードの取り付け

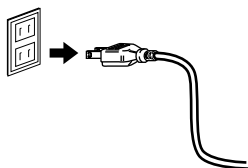
以下の手順でサウンドカードをコンピュータに取り付けます。

NOTE サウンドカードを取り付ける前に、ご使用のコンピュータのPCIカードスロットに空きがあるかどうかをご確認ください。すでに他のPCIカードが取り付けられているスロットを使用する場合、そのカードのドライバソフトを取り除いた後、電源を切ってPCIカードをスロットから取り外してください。その後、コンピュータを再起動することによって、今まで取り付けられていたカードが完全に取り除かれたことをコンピュータに認識させます。これらの一連の操作の後、もう一度電源を切った状態で以下のインストール手順を実行してください。

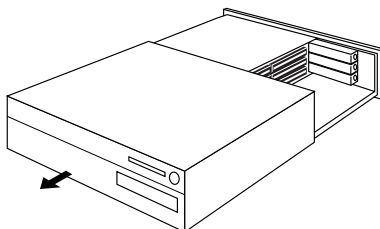
NOTE 別売のプラグインボード(PLG100シリーズ)およびデジタルミキシングカード(DS2416)をサウンドカードに装着する場合は、後述(P.16)もあわせてご参照ください。

1. コンピュータ本体の電源プラグをコンセントから抜きます。

! コンピュータの電源が入ったままサウンドカードの取り付けを行うと、感電する恐れがあり、たいへん危険です。必ず電源を切り、電源プラグを抜いた状態で行ってください。

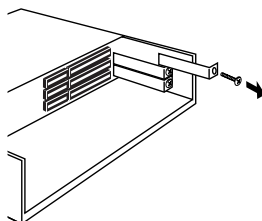


2. コンピュータ本体のカバーを外します。



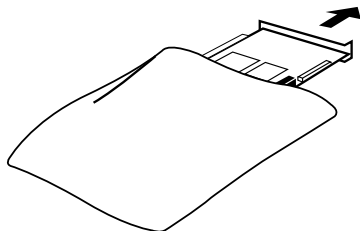
NOTE コンピュータ本体のカバーの外し方やPCIスロットの位置などは、コンピュータによってそれぞれ異なります。お使いのコンピュータのマニュアルを参照して、ご確認ください。

3. PCIスロットのカバーを取り外します。

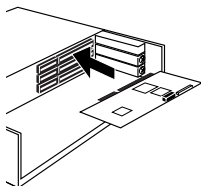


4. サウンドカードを静電気防止袋から取り出します。

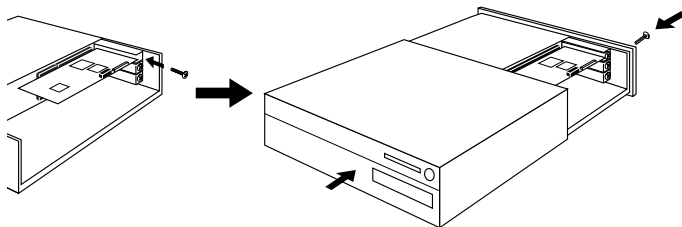
- ❗ サウンドカードを取り扱う前に、必ずアースされている金属の表面などに触れて、服や身体の静電気を取り除いてください。また、サウンドカードの基盤部分やコネクタ部などに触れないようにご注意ください。



5. コンピュータのコネクター部にサウンドカードのコネクター部を挿入します。カードの両端を両手で持ち、コンピュータのスロットにゆっくりと差し込んでください。差し込む時にカードの裏表(上下)を間違わないようにしてください。



6. (ネジで止めるタイプの場合、)ネジでサウンドカードを固定し、コンピュータ本体のカバーを取り付けます。



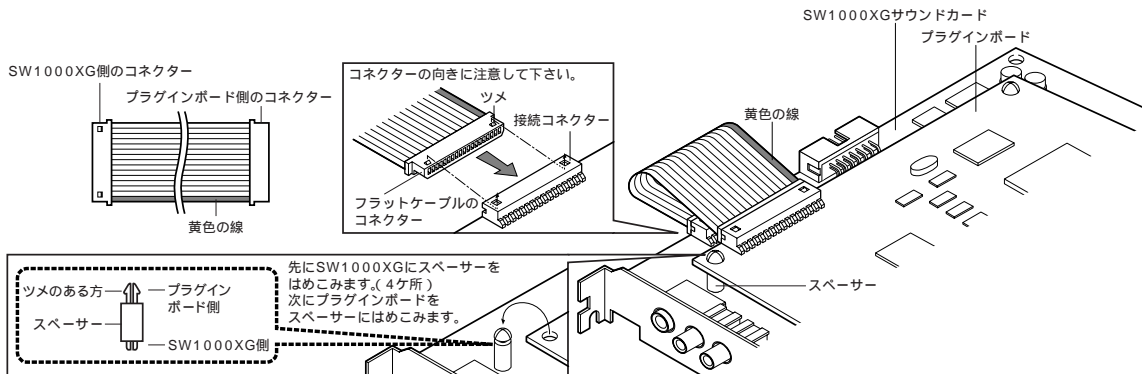
NOTE PCI拡張カードの固定方法やコンピュータ本体のカバーの取り付け方は、コンピュータによってそれぞれ異なります。お使いのコンピュータのマニュアルを参照してください。

7. サウンドカードの各接続端子と使用するデバイスのコネクター(スピーカー、ミキサー、MIDIキーボードなど)を接続します。

NOTE サウンドカードを取り外す場合は、上記の逆の手順で取り外してください。

プラグインボードの取り付け

下の図を参照して別売のプラグインボード(PLG100シリーズ)を装着します。
プラグインボードの向きを間違えないようにして、フラットケーブルのコネクターをサウンドカードのプラグインボード接続コネクターにゆっくりと差し込んでください。

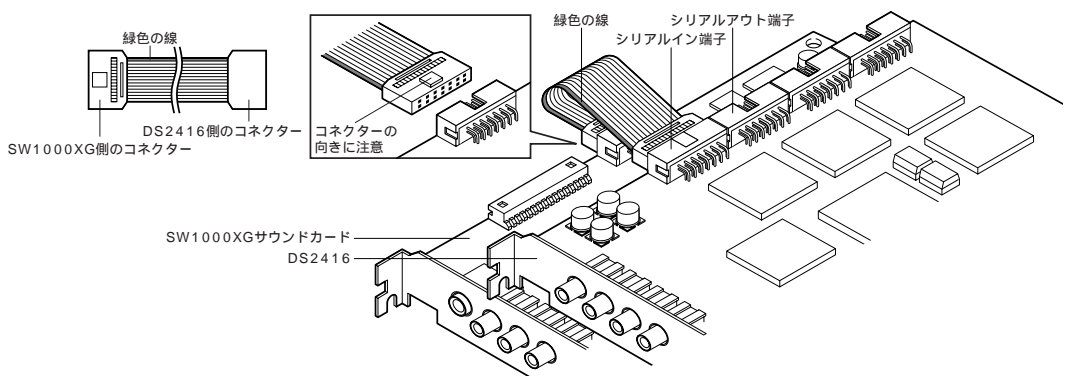


NOTE この作業は、サウンドカードをコンピュータ本体に接続する前に行います。

NOTE XGプラグインボードとして、PLG100-VL、PLG100-SG、PLG100-VH、PLG100-DXの4種類のボードが発売されています。
(1998年7月現在)それぞれの内容については、後述(P.27)や各商品に付属の取扱説明書をご参照ください。

デジタルミキシングカードの取り付け

下の図を参照して別売のデジタルミキシングカード(DS2416)を装着します。
フラットケーブルの向きを間違えないようにして、サウンドカードのデジタルミキシングカード接続コネクターにゆっくりと差し込んでください。



NOTE この作業は、サウンドカードをコンピュータ本体に接続する前に行います。

NOTE デジタルミキシングカード(DS2416)について詳しくは、商品に付属の取扱説明書をご参照ください。

SW1000XGサウンドカードからデジタルミキシングカード(DS2416)への出力について

初期設定では、全パートまとめてステレオ出力されて、DS2416に送られますが、任意のパートをステレオ出力から分離させて、インディビジュアルアウト(独立した出力)としてDS2416に送ることもできます。

SW1000XGサウンドカードには、6本のインディビジュアルアウトが用意されており、パートごとに(マルチパートでもオーディオパートでも可)、1~6のいずれか、または1+2、3+4、5+6のいずれかを選ぶことができます。

詳しくは、SW1000XGデータリスト(付属CD-ROM中の「Document」フォルダに、PDFファイル形式(ファイル名「Data_J.pdf」で収められています)のMIDIデータフォーマット付表<1-6><1-7>(MIDI Parameter Change table)のOUTPUT SELECTをご参照ください。

なお、OUTPUT SELECTの設定は、XGworks for SW1000XGのXGエディターウィンドウ(パートユニットのDETAILボタンをクリックすると開くプロパティダイアログ)で行うことができます。マルチパートのプロパティダイアログの場合は、ディテール画面のGeneralのページで設定します。

ドライバのインストール

サウンドカードを使用するには、適切なドライバ(SW1000XG Windows95 Driver)をインストールする必要があります。ドライバは付属のCD-ROMの中に含まれています。以下の手順でドライバをインストールします。

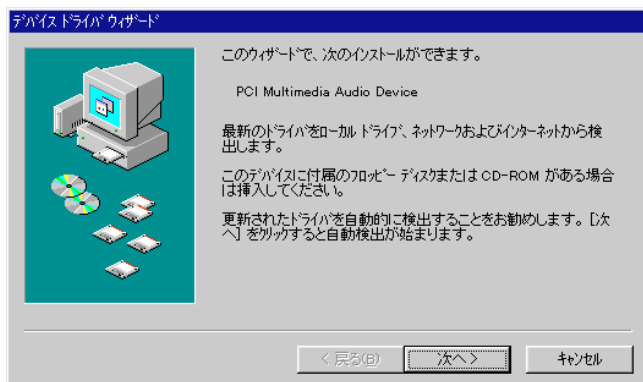
NOTE ドライバをインストールする前に、前述(P.13)を参照してSW1000XGサウンドカードをコンピュータ本体に取り付けておいてください。

NOTE マイコンピュータ コントロールパネル システムのプロパティの「情報」ページに記載されている「システム」の数字(Windows95のバージョン)が4.00.950Bと表示されている場合は、下記「OSR2の場合」を、4.00.950または4.00.950Aと表示されている場合は、下記「OSR2以前のWindows95の場合」をご参照ください。

OSR2の場合

1. コンピュータ本体の電源を入れます。

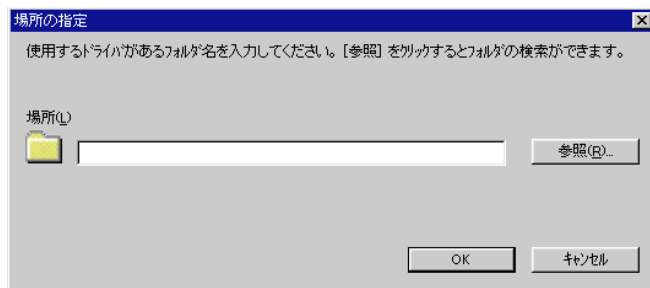
SW1000XGサウンドカードを取り付けた後、はじめてコンピュータ本体の電源を入れた時は、自動的にデバイスドライバウィザードが起動し、次の画面が表示されます。



2. 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、[次へ]をクリックします。「このデバイス用のドライバが見つかりませんでした。」というメッセージが表示されます。

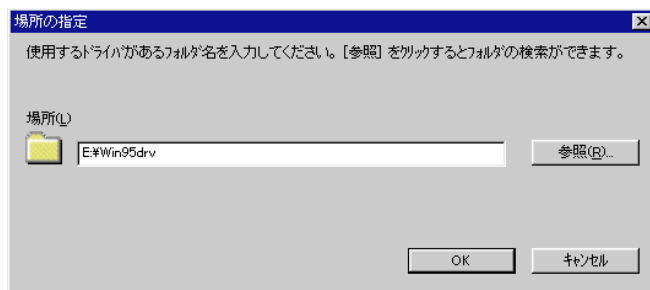


3. [場所の指定]をクリックします。「場所の指定」ダイアログボックスが表示されます。

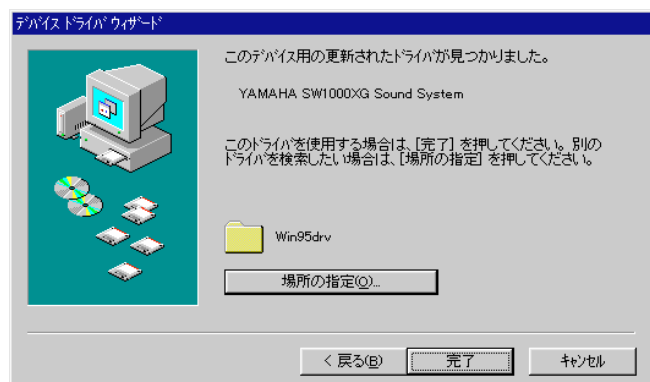


4. 「場所」欄にCD-ROMドライブ名(E:¥、F:¥など)とフォルダ名(Win95drv)を入力します。

例)E:¥Win95drv、F:¥Win95drv



5. [OK]をクリックします。「このデバイス用の更新されたドライバが見つかりました。」というメッセージが表示されます。



6. [完了]をクリックします。ファイルのコピーが行われ、「ディスクの挿入」ダイアログボックスが表示されます。



7. [OK]をクリックします。「ファイルのコピー」ダイアログボックスが表示されます。



8. 「ファイルのコピー元」欄に、手順4.と同様にCD-ROMドライブ名とフォルダ名を入力します。

例)E:¥Win95drv、F:¥Win95drv

9. [OK]をクリックします。ファイルのコピーが行われます。

10. コンピュータを再起動します。

これでドライバのインストールは完了です。

OSR2以前のWindows 95の場合

1. コンピュータ本体の電源を入れます。

SW1000XGサウンドカードを取り付けた後、はじめてコンピュータ本体の電源を入れた時は、自動的に「新しいハードウェア」ダイアログボックスが表示されます。

2. 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、「ハードウェアの製造元が提供するドライバ」を選択して[OK]をクリックします。

「フロッピーディスクからのインストール」ダイアログボックスが表示されます。

3. 「配布ファイルのコピー元」欄にCD-ROMドライブ名(E:¥、F:¥など)とフォルダ名(Win95drv)を入力します。

例)E:¥Win95drv、F:¥Win95drv

4. [OK]をクリックします。ファイルのコピーが行われ、「ディスクの挿入」ダイアログボックスが表示されます。

5. [OK]をクリックします。「ファイルのコピー」ダイアログボックスが表示されます。

6. 「ファイルのコピー元」欄に、手順3.と同様にCD-ROMドライブ名とフォルダ名を入力します。

例)E:¥Win95drv、F:¥Win95drv

7. [OK]をクリックします。ファイルのコピーが行われます。

8. コンピュータを再起動します。

これでドライバのインストールは完了です。

ソフトウェアのインストール

このパッケージには、SW1000XGの機能を活用して本格的な音楽制作を楽しめるシーケンスソフトXGworks for SW1000XGをはじめとして、数々のプラグインソフトやデモファイルが付属しています。ここでは、ソフト別にインストール方法をご説明します。

XGworks for SW1000XGおよびWave Editor TWEのインストール

手順に従って、下記のプログラムをインストールします。各プログラムの内容についてはP.9をご参照ください。

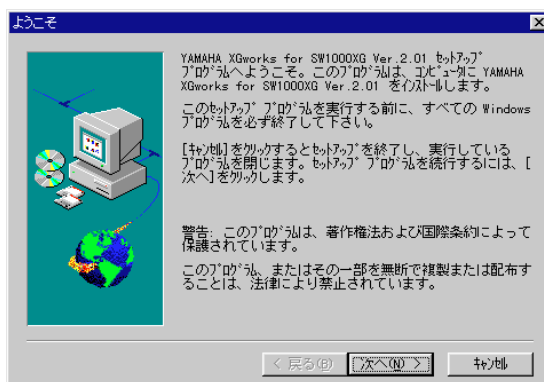
- XGworks for SW1000XG
- Wave Editor TWE
- SW1000XG Mixer

NOTE SW1000XG Mixerとは、XGworks for SW1000XG専用のプラグインソフトで、XGworksにウェーブ録音したり、XGworksのウェーブトラックを再生したりする際のミキシング(音量やエフェクトセンドレベルの調整など)を行うことができます。

1. CD-ROMドライブに付属のCD-ROMを挿入します。
2. マイコンピュータをダブルクリックして開きます。
3. CD-ROMドライブのアイコンをダブルクリックして開き、その中の[XGworks]フォルダに入っているSetup.exeをダブルクリックします。

セットアップ画面が表示され、セットアップの初期化が行われます。

セットアップの初期化が終わると、「ようこそ」画面が表示されます。



4. [次へ]をクリックします。「XGworks for SW1000XGへようこそ」画面が開きますので、名前と会社名、シリアル番号を入力して、[次へ]をクリックします。インストールプログラムの選択ダイアログが表示されます。



NOTE シリアル番号は、ユーザー登録ハガキに印刷されています。正しい番号をご確認の上、入力してください。

5. インストールするプログラムを選択します。リストに表示されている各プログラム名の隣にあるボックスをクリックしてチェックマークを付けると、そのプログラムをインストールすることができます。チェックマークを外す場合は、チェックマークの付いているボックスをクリックします。



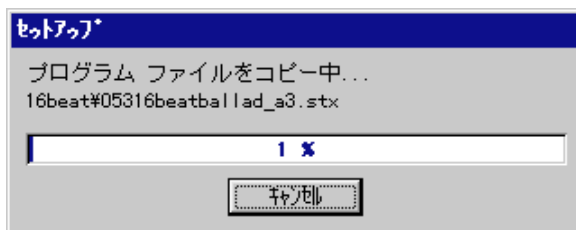
NOTE XGworks for SW1000XGを最大限に活用するためには、すべてのプログラムをインストールする必要があります。

6. [次へ]をクリックします。インストール先の選択ダイアログボックスが開きます。

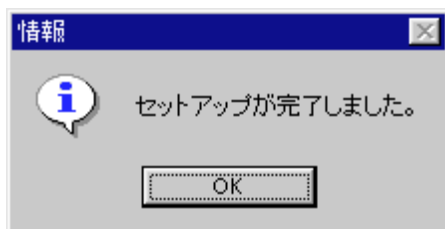


ここでインストール先のドライブとディレクトリ名を決めます。自動的にインストール先が選択されますが、変更したい場合は、[参照]ボタンをクリックしてインストール先のディレクトリを選択してください。

7. ドライブとディレクトリ名を確認して、[次へ] をクリックします。セットアップ画面に変わり、インストールが開始されます。



8. セットアップ完了メッセージが表示されます。
[OK] をクリックします。



これでXGworks for SW1000XGおよびWave Editor TWEのインストールが完了しました。

NOTE XGworks for SW1000XGをインストール後、実際に使用するためには、コンピュータを再起動する必要があります。画面のメッセージに従って、コンピュータを再起動してください。

XGプラグインソフトのインストール

手順に従って、下記のXGプラグインソフトをインストールします。各ソフトの内容についてはP.9、P.10をご参照ください。

- SG Lyric Editor
- SG Easy Editor
- VL Visual Editor
- VH Effect Editor
- DX Easy Editor
- DX Simulator
- Auto Play

NOTE XGプラグインソフトをインストールする前に、必ずXGworksをインストールしておいてください。

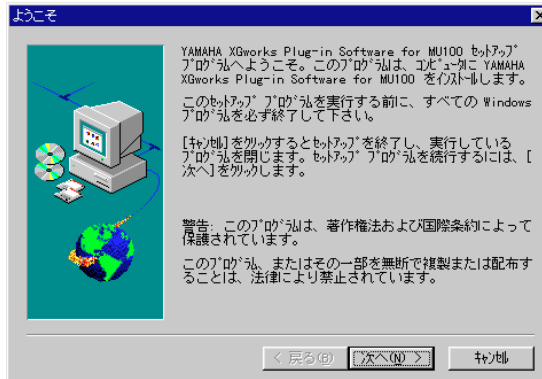
1. CD-ROMドライブに付属のCD-ROMを挿入します。
2. マイコンピュータをダブルクリックして開きます。

3. CD-ROMドライブのアイコンをダブルクリックして開き、その中の[Plug]フォルダに入っているSetup.exeをダブルクリックします。

NOTE DX Easy EditorおよびDX Simulatorをインストールする場合は、[Plug DX]フォルダに入っているSetup.exeをダブルクリックします。

セットアップ画面が表示され、セットアップの初期化が行われます。

セットアップの初期化が終わると、「ようこそ」画面が表示されます。



4. [次へ]をクリックします。ご使用条件ダイアログボックスが開きますので、よくお読みの上、[はい]をクリックします。インストールにあたっての注意事項が表示されます。[はい]をクリックすると、インストールプログラムの選択ダイアログが表示されます。

5. インストールするXGプラグインソフトを選択します。リストに表示されている各ソフト名の隣にあるボックスをクリックしてチェックマークを付けると、そのソフトをインストールすることができます。チェックマークを外す場合は、チェックマークの付いているボックスをクリックします。



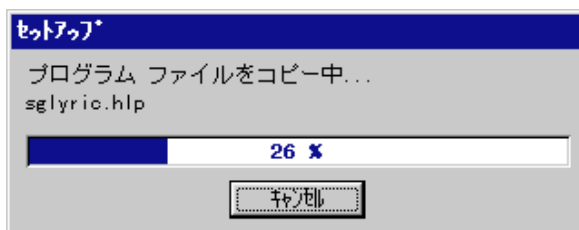
6. [次へ]をクリックします。インストール先の選択ダイアログボックスが開きます。



ここでXGプラグインソフトをインストールするドライブとディレクトリ名を決めます。自動的にインストール先が選択されますが、変更したい場合は、[参照]ボタンをクリックしてインストール先のディレクトリを選択してください。

NOTE XGプラグインソフトがXGworks上で正しく動作するためには、XGプラグインソフトを、XGworks.exeと同じフォルダ内(通常は、[Program Files]の中の[Yamaha])に入っている[XGworks for SW1000XG]フォルダ)にインストールする必要があります。

7. ドライブとディレクトリ名を確認して、[次へ] をクリックします。セットアップ画面に変わり、インストールが開始されます。



8. セットアップ完了メッセージが表示されます。
[OK] をクリックします。



これでXGプラグインソフトのインストールが完了しました。

SW1000XGの構成と機能

演奏モード

SW1000XGサウンドカードは、XGとTG300Bの2種類の演奏モードを持っています。通常はXGモードで動作します。市販のXG曲集やGM曲集のデータを再生する場合は、データの最初に記録されている信号を読み取り、SW1000XG側で自動的に演奏モードを切り替えます。自分でシーケンスデータを作成する場合も、XGシステムオンなどのエクスクルーシブメッセージをデータに入れることで演奏モードを切り替えることができます。

NOTE コンピュータを起動すると、SW1000XG本体内の設定はすべて初期化されます。

NOTE 演奏モードの自動切り替えをとまなう場合、約0.5秒の時間を要します。制作するソングデータの曲頭部には、若干の空白小節を挿入されることをおすすめします。

XGモード

SW1000XGサウンドカードを、XGに完全対応したマルチ音源として使用するモードです。XGマークのついた市販のソングデータをこのモードで再生することで、無数の拡張ボイスやエフェクト機能までも含めた壮大な演奏を気軽に楽しむことができます。

また、GMシステムレベル1に完全対応したマルチ音源としても機能しますので、GMマークのついた市販のソングデータをよりよい音で演奏できます。

- ・使用できるパート数: 32パート + 14 Audioパート
- ・使用できるボイス数: 1074 ノーマルボイス + 36 ドラムボイス

TG300Bモード

SW1000XGサウンドカードを、GMシステムレベル1に準拠したマルチ音源として使用するモードです。このモードでは、TG300のGM-Bモードと同様、他社のコンピュータミュージック用音源と高い互換性を持ちます。しかし、TG300で作成したデータをそのまま再生すると、鳴り方が異なる場合があります。

- ・使用できるパート数: 32パート + 14 Audioパート
- ・使用できるボイス数: 614 ノーマルボイス + 10 ドラムボイス

ボイス

ボイスとは、音源の最小単位であるエレメントによって構成された音色プログラムのことです。

ボイスには、1エレメントのものと2エレメントのものがあります。

2エレメントで構成されているボイスには、1エレメントでは作れない分厚いボイスや、鍵盤を弾く強さによって音色を切り替えられるボイス、ピアノとストリングスというような異なった音が混ざりあったボイスなどが含まれています。

各ボイスの使用エレメント数は、SW1000XGデータリスト(付属CD-ROMの中の「Document」フォルダに、PDFファイル形式(ファイル名「Data_J.pdf」)で収められています。)のボイスリストをご参照ください。

ノーマルボイスとドラムボイス

ボイスには、ノーマルボイスとドラムボイスの2種類があります。

ノーマルボイスとは、鍵盤の音階に合った音程で発音する楽器音のことです。単にボイスと呼ぶときは、ノーマルボイスのことを指します。

ドラムボイスとは、1ボイスの中に多数のドラムやパーカッションの音色がノート(鍵盤)ごとに割り当てられている特殊なボイスです。

ノーマルボイスでは弾く鍵盤位置によって音程が変化しますが、ドラムボイスだとまったく別の音色が鳴ります。

最大同時発音数

SW1000XGの最大同時発音数は64音です。この64音というのはエレメント単位で計算されます。音源全体で使用できる音数は、1エレメント構成のボイスばかり使っているときは64ですが、2エレメント構成のボイスを混ぜて使うと64音より少なくなります。

SW1000XGでは、最大同時発音数を超える演奏情報を受信すると、発音中の音から強制的に止めて、後から送られてくる演奏情報を優先的に発音する仕組みになっています(後着優先)。

各パートの発音優先順位

SW1000XGでは、最大同時発音数を超えたとき、発音優先順位の低いパートから順番に音を消す仕組みになっています。ですから最大発音数を超えた場合でも、メロディやベースのような重要なパートは優先順位の高いパートに割り当てておくと、曲の雰囲気を大きく損なうことがありません。

チャンネル(パート)発音優先順

10(ドラムパート) - 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7 - 8 - 9 - 11 - 12 - 13 - 14 - 15 - 16 - 26(ドラムパート) - 17 - 18 - 19 - 20 - 21 - 22 - 23 - 24 - 25 - 27 - 28 - 29 - 30 - 31 - 32

ボイスの選択

SW1000XGは、本体に1267(ノーマルボイス)+46(ドラムボイス)種類のボイスを内蔵しています。

ボイスを選択することができるプログラムナンバーは1~128です。128を超えたボイスを選択するために、プログラムナンバーにバンクナンバーを組み合わせて使用します。

- ・基本ボイスの128ボイスはGMシステムレベル1に準拠しています。
- ・バンクナンバーとプログラムナンバーで設定できるボイスについては、SW1000XGデータリスト(付属CD-ROMの中の「Document」フォルダに、PDFファイル形式(ファイル名「Data_J.pdf」)で収められています。)のボイスリストをご参照ください。

バンクナンバーは、MIDIメッセージにおいて、コントロールチェンジのバンクセレクトMSB、バンクセレクトLSBという2種類のメッセージで表現されています。

実際のMIDIデータでは、演奏モードが「XG」のときは、MSBの値でノーマルボイスとドラムボイスといったボイスタイプの区分を、LSBの値で拡張ボイスのバンクを設定しています(ただしSFXバンクのみMSBでバンクを設定します)。

また、演奏モードが「TG300B」のときは、LSBの値を固定して、MSBの値だけでボイスバンクを設定します。

外部MIDI機器から、SW1000XGのプログラムナンバーを変更するときは、MIDIプログラムチェンジを使用します。プログラムチェンジナンバーは0~127の範囲で、プログラムナンバーは1~128の範囲になっているため、設定する値に1つずれが生じるシーケンサーやシーケンスソフトがあります。詳しくは、使用されるシーケンサーやシーケンスソフトのマニュアルをご参照ください。

システムエフェクトとインサージョンエフェクト

SW1000XGは、システムエフェクトとしてリバーブとコーラスの2系統、インサージョンエフェクトとしてインサージョン1とインサージョン2の2系統、そしてシステムとインサージョンのどちらにも設定可能なバリエーションエフェクトを1系統の、合計5系統のエフェクトを内蔵しています。これらのエフェクトをうまく使いこなすことで、より高度な曲作りが可能になります。

システムエフェクト.....すべてのパートからセンド/リターンで信号をやりとりするタイプのエフェクト

インサージョンエフェクト.....任意の1パートに使用できるエフェクト

5バンドマルチイコライザー

イコライザーを設定して、音の周波数帯域ごとのレベルを補正したり、スピーカーや演奏する部屋の特性に合わせてサウンドを補正します。

SW1000XGは5つのエフェクトとは別に、5バンドのデジタルグラフィックイコライザーを装備しています。このイコライザーは各パートの2バンドEQとは違い、SW1000XG全体をイコライジングし、システム全体の出力に対してベストなレベル補正を行えます。

イコライザーとは

イコライザーは、音をいくつかの周波数帯域に分けて各帯域ごとのブースト/カットを調節することで、サウンドを補正する機器のことです。たとえば、高い周波数のレベルを上げ下げすると、高い音の成分を強調したりカットしたりすることができます。一般的にイコライザーは、アンプやスピーカー、部屋の特性に合わせて、音場環境を補正するために使用します。また、演奏する曲のジャンルに合わせて音を補正することで、クラシックはより繊細に、ポップスはより明確に、ロックはよりダイナミックに、というように曲の特長を引き出し、音楽をより楽しめる環境を作ります。

SW1000XGの内蔵するイコライザーは、5つの周波数帯域に分けて、各帯域ごとの補正効果が最も高い周波数を調節できます。さらに、バンドごとの中心周波数を自由に設定することもでき、自由度の高いイコライジングを行うことが可能です。

A/Dインプット

マイクやCDプレイヤーなどの外部オーディオソースを入力することができます。

入力信号には、内部音源と同様に、各エフェクトをかけることができます。

また、付属のアプリケーションソフト「XG Works for SW1000XG」を使えば、MIDIトラックの再生に合わせてウェーブトラックへ録音することができます。

プラグインシステムについて

SW1000XGサウンドカードは、「XGプラグインシステム」に対応しています。別売のXGプラグインボードをSW1000XGサウンドカードに装着すると、SW1000XGの機能とXGプラグインボードの機能が有機的に結合し、あたかもXGプラグインボードがSW1000XGの回路に組み込まれたかのように機能します。

音源タイプのXGプラグインボードをSW1000XGに装着すると、プラグインボード上の音源にはSW1000XGの1パートが割り当てられ、SW1000XG本体のパートとまったく同じように、システムエフェクト、インサクションエフェクト、システムEQなどの効果をかけることができます。

エフェクトタイプのXGプラグインボードをSW1000XGに装着すると、XGのインサクションエフェクトとして機能します。

別売のXGプラグインボードについて

XGプラグインボードとして、PLG100-VL、PLG100-SG、PLG100-VH、PLG100-DXの4種類のボードが発売されています。(1998年7月現在)

PLG100-VL

物理モデル音源であるS-VA音源を搭載したXGプラグインボードです。リアルな管弦楽器音から実在しない仮想楽器音まで256音色を内蔵し、バーチャルアコースティックトーンジェネレーターVL70-m相当の豊かな表現力で演奏が可能です。本パッケージのCD-ROMに収録されている「VL Visual Editor (VLビジュアルエディター)」を使うことによって、物理モデルの知識がなくても簡単に音づくりを楽しむことができます。

PLG100-SG

フォルマントシンキング音源を搭載したXGプラグインボードです。あたかもシンセサイザーで音色を作るように人の声を合成し、これまで不可能だった歌詞付きの曲を音源システムだけで入力/再生することが可能です。

本パッケージのCD-ROMに収録されている「SG Lyric Editor (SGリリックエディター)」を使って歌詞を作成することができます。また「SG Easy Editor (SGイージーエディター)」を使ってボーカル音声をエディットすることができます。

PLG100-VH

ボーカルに最適なハーモニーエフェクトを搭載したXGプラグインボードです。4種類のエフェクトタイプを内蔵し、A/Dインプット端子から入力されたボーカル音声にキーボードで弾いた音程のハーモニー音を付加したり(ボコーダーハーモニー)、指定したコードにあったハーモニー音を付加したり(コーダルハーモニー)などの効果を付けることができます。また、入力された声質を変更したり、コーラス効果やボイスチェンジャーなどユニークな効果を手軽に楽しむこともできます。

本パッケージに付属のCD-ROMに収録されている「VH Effect Editor (VHエフェクトエディター)」を使って、ハーモニーエフェクトをエディットすることができます。

PLG100-DX

往年の名機DX7と同等の16音ポリFM音源を搭載したXGプラグインボードです。FM音源独特のきらびやかなサウンドを曲の中で使うことができます。本パッケージに付属のCD-ROMに収録されている「DX Easy Editor (DXイージーエディター)」や「DX Simulator (DXシミュレーター)」を使うことによって、コンピュータの画面上でFM音源の音づくりを楽しむことができます。

XGworks V2.0の補足事項

本パッケージに付属しているシーケンスソフトXGworks for SW1000XGは、SW1000XG専用の仕様になっています。ここでは、付属のXGworks V2.0取扱説明書に記載されていない機能や補足事項をご紹介します。

複数ウェーブの同時再生および途中からの再生が可能

複数のウェーブトラックのデータをSW1000XGサウンドカードのオーディオパート(最大12パート)に送り、各パートごとにエフェクト処理をして同時再生することが可能です。また、曲の途中からのウェーブ再生も可能です。ただし、XGworksのプレイコントロールを使って早送りすることはできません。FWDボタン上でマウスボタンを押し続けても、通常の再生スピードで前に進みます。

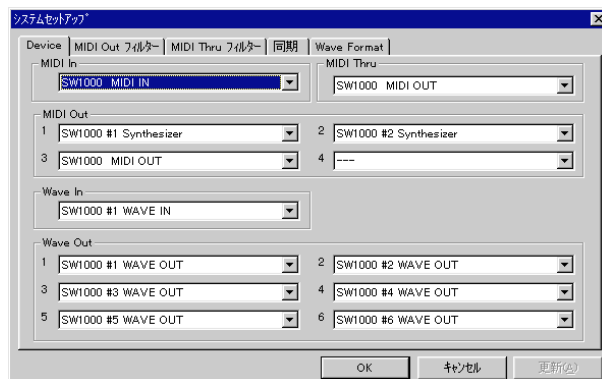
システムセットアップダイアログ

システムセットアップダイアログに以下の機能や項目が追加されました。

NOTE システムセットアップダイアログは、メニューバーの[設定(U)]メニューをクリックし、プルダウンメニューから[システムセットアップ(U)]を選ぶと開きます。詳しくはXGworks V2.0取扱説明書のP.260をご参照ください。

システムセットアップダイアログのDeviceページ

Wave Outの設定が6個になりました。最大6種類のウェーブ用の出力デバイスを設定することができます。



デバイスの選択について

SW1000XGサウンドカードをお使いの場合、以下のようにデバイスを選択します。

MIDI In

「SW1000 MIDI IN」を選択します。SW1000XGサウンドカードのMINI DIN 6ピン端子に付属のMIDIアダプターケーブルを使って外部MIDIキーボードを接続している場合、MIDIキーボードの演奏をSW1000XGサウンドカードで鳴らすことができます(下記MIDI ThruやMIDI Outで「SW1000 #1(または#2) Synthesizer」を選択している必要があります)。

MIDI Thru

「SW1000 #1(または#2) Synthesizer」を選択します。上記MIDI Inデバイスを通じて入ってきたMIDI信号で、SW1000XGサウンドカードを鳴らすことができます。
「SW1000 MIDI OUT」を選択すると、SW1000XGサウンドカードのMINI DIN 6ピン端子に付属のMIDIアダプターケーブルを使って外部MIDI音源を接続している場合、その音源を鳴らすことができます。

NOTE 「SW1000 #1 Synthesizer」はパートナンバー1～16のMIDI出力用デバイス、「SW1000 #2 Synthesizer」はパートナンバー17～32のMIDI出力用デバイスです。

MIDI Out

「SW1000 #1(または#2) Synthesizer」を選択します。XGworksから出力されるMIDI信号(演奏データ)で、SW1000XGサウンドカードを鳴らすことができます。

「SW1000 MIDI OUT」を選択すると、SW1000XGサウンドカードのMINI DIN 6ピン端子に付属のMIDIアダプターケーブルを使って外部MIDI音源を接続している場合、その音源を鳴らすことができます。

NOTE 「SW1000 #1 Synthesizer」はパートナンバー1～16のMIDI出力用デバイス、「SW1000 #2 Synthesizer」はパートナンバー17～32のMIDI出力用デバイスです。

Wave In

「SW1000 #1(または#2) WAVE IN」を選択します。

「SW1000 #1 WAVE IN」は、SW1000XGサウンドカードの外部オーディオ入力(A/Dインプット)専用のWave入力デバイスです。

NOTE A/Dインプットのオーディオ信号にエフェクトをかけている場合、そのエフェクトは無視されます。XGworksのウェーブトラックに録音したとしても、いわば「素の」音だけが録音されます。

「SW1000 #2 WAVE IN」は、SW1000XGサウンドカードを使って聴こえるすべての音(A/Dインプット+XGworksのウェーブトラック+サウンドカードのAWM2音源サウンドのミックス)のWave入力デバイスです。

NOTE 「SW1000 #1 WAVE IN」と異なり、エフェクトをかけている場合はそのエフェクト成分も入力されます。

Wave Out

「SW1000 #1～#6 WAVE OUT」を選択します。

#1～#6の各WAVE OUTデバイスと、SW1000XGサウンドカードのオーディオパートの関係は次の通りです。

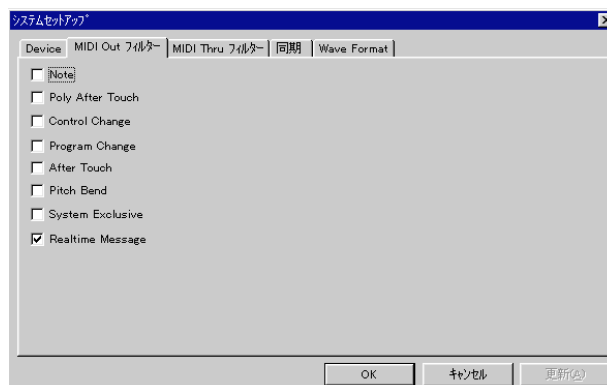
- ・SW1000#1 WAVE OUT: サウンドカードのオーディオパートPCI 1と2に対してウェーブデータを出力します。
- ・SW1000#2 WAVE OUT: サウンドカードのオーディオパートPCI 3と4に対してウェーブデータを出力します。
- ・SW1000#3 WAVE OUT: サウンドカードのオーディオパートPCI 5と6に対してウェーブデータを出力します。
- ・SW1000#4 WAVE OUT: サウンドカードのオーディオパートPCI 7と8に対してウェーブデータを出力します。
- ・SW1000#5 WAVE OUT: サウンドカードのオーディオパートPCI 9と10に対してウェーブデータを出力します。
- ・SW1000#6 WAVE OUT: サウンドカードのオーディオパートPCI 11と12に対してウェーブデータを出力します。

「PCI」パートとは、SW1000XGサウンドカードで定義されているオーディオパートのうち、XGworksのウェーブトラックからSW1000XG Mixer(P.34)に入力されるパートのことです。全部で12パートあり、各パート間のミキシングはSW1000XG Mixerで設定できます。

システムセットアップダイアログのMIDI Outフィルターページ

Realtime Messageの項目が追加されました。ボックスをチェックすることによって、リアルタイムメッセージを出力させなくすることができます。なお、ボックスをチェックしていない場合(出力させる場合)、リアルタイムメッセージは、MIDIアウトポートの1番(システムセットアップダイアログのDeviceページで設定)に出力されます。

NOTE リアルタイムメッセージとは、XGworksのスタート、ストップ、ソングポジションポイントの情報のことです。XGworks側でソングを再生すると、リアルタイムでこれらの情報がMIDI出力されます。シーケンサー内蔵のMIDIキーボードを音源として使用すると、XGworksの再生と同期してキーボード内蔵シーケンサーも再生されますので、同期再生を必要としない場合は、このボックスをチェックしてください。



トラックビューウィンドウ

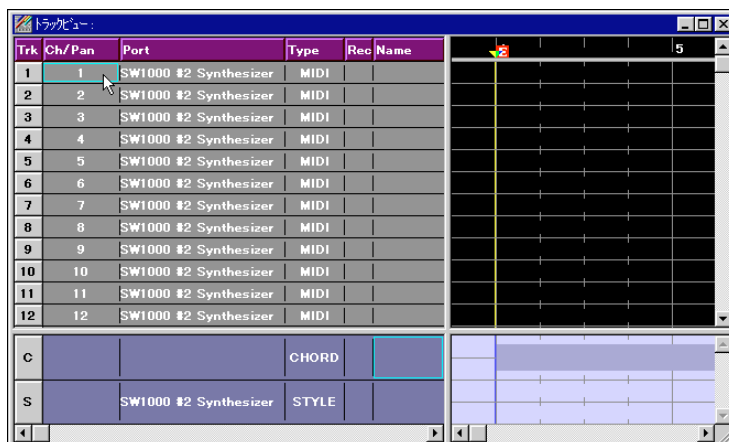
トラックパラメータセクション

トラックパラメータのCh(チャンネル)表示が、Ch/Pan(チャンネル/パン)表示に変わり、以下の機能が追加されました。

NOTE SW1000XGサウンドカードをお使いの場合、トラックパラメータセクションのPortは以下のとおり設定します。

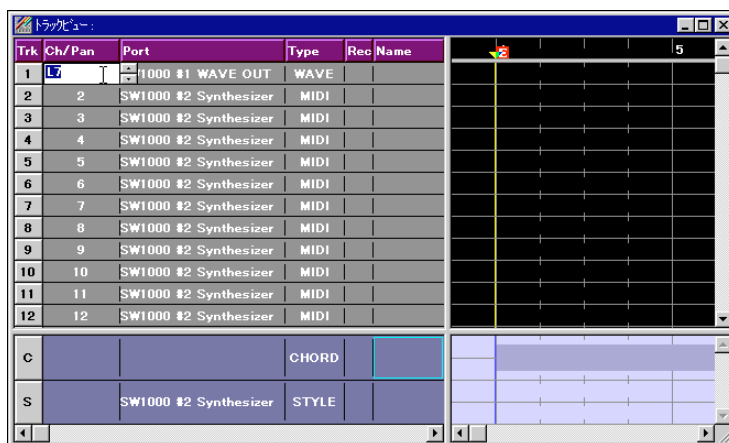
トラックタイプがMIDIの場合SW1000#1(または#2)Synthesizer

トラックタイプがWAVEの場合SW1000#1～#6 WAVE OUT



Type表示で、トラックタイプにWAVEを選択すると、Ch/Pan(チャンネル/パン)表示でウェーブのパン(ステレオ定位)を設定できるようになります。

NOTE トラックタイプにMIDIを選択した場合は、Ch/Pan(チャンネル/パン)表示で、従来通り出力MIDIチャンネルの設定を行います。



設定できる値：L7～L1、C、R1～R7

WAVEトラックのPort表示で選択されているデバイス(SW1000#1～#6 WAVE OUT)は、それぞれSW1000XGサウンドカードの2つのオーディオパートに対応しています。たとえば、SW1000#1 WAVE OUTは、サウンドカードのオーディオパートPCI1とPCI2に対して、ウェーブデータを出力します(P.29)。

WAVEトラックのデータがモノラルの場合、Ch/Panの値をL1～L7に設定すると、ウェーブデータの出力はPCI奇数パート(PCI1、3、5、7、9、11)により多く割り振られます。R1～R7に設定すると、ウェーブデータの出力はPCI偶数パート(PCI2、4、6、8、10、12)により多く割り振られます。Cに設定すると、PCI奇数パート、偶数パートの両方にウェーブデータが均等に出力されます。

WAVEトラックのデータがステレオの場合は、Ch/Panの値にかかわらず、PCI奇数パート、偶数パートの両方に、ウェーブデータが均等に出力されます。

後述のSW1000XG Mixer(P.34)を使うことによって、各PCIパートごとのパンを設定することができます。

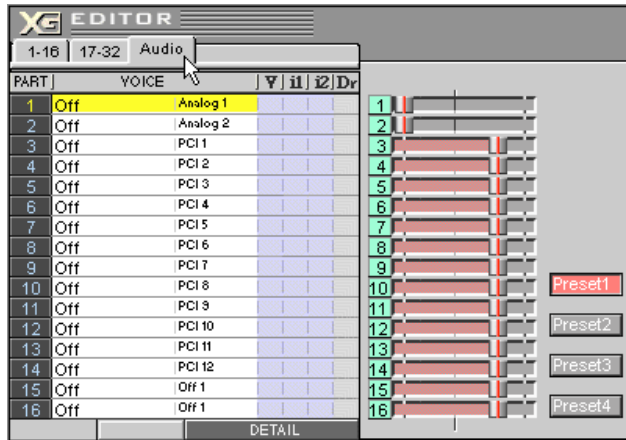
XGエディターウィンドウ

XGエディターウィンドウに以下の機能が追加されました。

NOTE XGエディターウィンドウは、ツールバーのXGエディターウィンドウボタンをクリックすると開きます。ツールバーについてはXGworks V2.0取扱説明書のP.16をご参照ください。

パートユニット

パートユニットのA/Dタブが、Audioに変更されました。



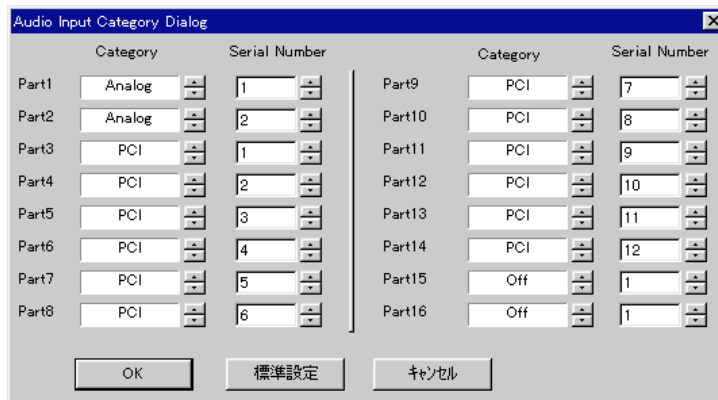
Audioタブをクリックすると、オーディオパートのリストが表示されます。SW1000XGサウンドカードの外部オーディオ入力(A/Dインプット)端子からSW1000XG Mixer(P.34)に入力されるオーディオ信号(VOICEの欄に「Analog」と表示)および、XGworksのウェブトラックからSW1000XG Mixer(P.34)に入力されるオーディオ信号(VOICEの欄に「PCI」と表示)に対して、それぞれバリエーションエフェクト、インサクション1/2エフェクトを割り当てることができます。

DETAIL(ディテール:詳細)ボタンをクリックすると、選択されたAudioパート(VOICEの欄が黄色くなっているパート)のダイアログが開き、そのパートについて細かい設定ができます。設定内容については、SW1000XGデータリスト(付属CD-ROMの中の「Document」フォルダに、PDFファイル形式(ファイル名「Data_J.pdf」)で収められています)のMIDIデータフォーマットのMIDI Parameter Change Table (Audio Part)およびMIDI Parameter Change Table (Audio Part Configuration)をご参照ください。

各パートのVOICE欄の左側をダブルクリックすると、ボイスリストダイアログが開き、オーディオパートにかけるエフェクトを設定することができます。設定内容についてはSW1000XGデータリスト(付属CD-ROMの中の「Document」フォルダにPDFファイル形式(フォルダ名「Data_J.pdf」)で収められています)の「A/Dインプットプリセットリスト」をご参照ください。また、ボイスリストダイアログの使い方についてはXGworks V2.0取扱説明書のP.27をご参照ください。

各パートのVOICE欄の右側をダブルクリックすると、オーディオインプットカテゴリダイアログが開き、オーディオパートのカテゴリを設定することができます。

オーディオインプットカテゴリダイアログ



Category (カテゴリー)

パートユニットに表示されている1～16の各パートについて、サウンドカードに送られるオーディオ信号のカテゴリーを選択します。上下スクロールボタンをクリックすることで、Off、Analog、PCIなどの中から選択することができます。

SW1000XGサウンドカードをお使いの場合は、「Analog」または「PCI」を選択します。

「Analog」とは、SW1000XGサウンドカードの外部オーディオ入力(A/Dインプット)端子からSW1000XG Mixer (P.34)に入力されるオーディオ信号のことです。

「PCI」とは、XGworksのウェーブトラックからSW1000XG Mixer(P.34)に入力されるオーディオ信号のことです。

Serial Number (シリアルナンバー)

Categoryで選択されたオーディオ信号のカテゴリーについて、パートナンバーを設定します。上下スクロールボタンをクリックすることで、1～128までの数値を選択することができます。SW1000XGサウンドカードをお使いの場合、以下のように設定します。

Categoryで「Analog」を選択している場合、1または2を選択します。これは、SW1000XGサウンドカードで外部オーディオ入力(A/Dインプット)を最大2パートまで受けけることができるからです。

Categoryで「PCI」を選択している場合、1～12の範囲で選択します。これは、XGworks for SW1000XGのウェーブトラックのデータを、SW1000XGサウンドカードの最大12までのオーディオパートに送ることができるからです。

各項目を設定し、[OK]をクリックするとダイアログが閉じ、設定が有効になります。操作を中止する場合には[キャンセル]をクリックすると、もとの設定のままダイアログを閉じます。[標準設定]をクリックすると、各パートのCategoryとSerial Numberは標準設定になります。

NOTE 通常は、標準設定でお使いください。標準設定の場合、Part 1=Analogの1、Part 2=Analogの2、Part 3=PCIの1、Part 4=PCIの2...Part 14=PCIの12となります(Part 15と16は、offになります)。

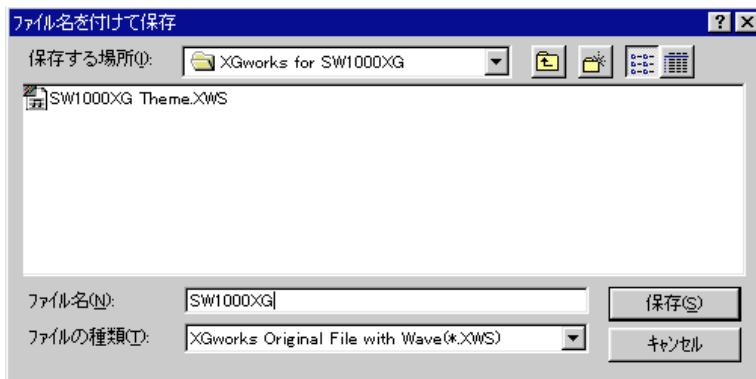
NOTE 標準設定以外の場合、Windows標準のミキサー(タスクバーのスピーカーアイコンをダブルクリックして起動する「ボリュームコントロール」)で各オーディオパートのボリュームやステレオ定位を正しくコントロールできなくなります。

NOTE 各パートのCategoryで「Analog」「PCI」以外を選択することもできますが、これらは、将来的に多様なオーディオパートを持つ機器との互換性を保つための選択肢なので、通常選択する必要はありません。

パートユニットについて詳しくは、XGworks V2.0取扱説明書のP.231をご参照ください。

ソングの中にウェーブデータも保存可能

XGworks V2.0取扱説明書「ソングの保存」(P.104)にあるように、ウェーブデータを含むソングは、.XWSファイル(XGworksオリジナルのソングファイル)として保存する必要がありますが、従来の.XWSファイルには、ウェーブデータ(.WAVファイル)自体は含みませんでした(XGworks V2.0取扱説明書P.99「.WAVファイルについて」参照)。そこでXGworks for SW1000XGでは、ウェーブデータ自体を.XWSファイル内に含んで保存できるようになりました。[ファイル名を付けて保存]ダイアログ(XGworks V2.0取扱説明書P.253)のファイルの種類(T)ボックスで、[XGworks Original File with Wave(*.XWS)]を選んでファイルを保存すると、.XWSファイルにウェーブデータを含んで保存することができます。



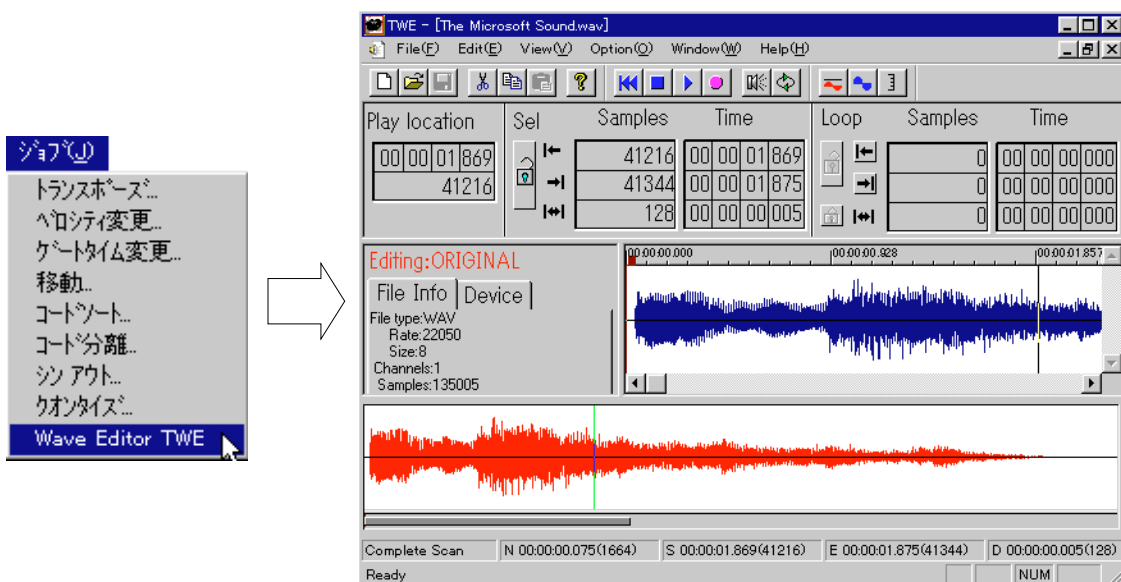
NOTE ウェーブデータ自体を含んだ.XWSファイルは、予想以上にファイルサイズが大きくなってしまふ場合があります。このような場合は、状況に応じて従来の.XWSファイル形式(ウェーブデータ自体を含まずウェーブデータとリンクした.XWSファイル形式)や.MIDファイル形式で保存することも可能です。

Wave Editor TWEを開く

このパッケージに付属の波形編集ソフトWave Editor TWEをXGworks for SW1000XG上から開いて、使用することができます。

NOTE あらかじめWave Editor TWEをインストールしておく必要があります。Wave Editor TWEのインストールは、XGworks for SW1000XGのインストール時に同時に行うことができます。詳しくは前述(P.20)をご参照ください。

エディットしたいウェーブブロックを選択した状態で、アプリケーションウィンドウのメニューバーの[ジョブ(J)]メニューをクリックし、プルダウンメニューから[Wave Editor TWE]を選択します。



NOTE Wave Editor TWEの使用方法については、インストール後、Windows95の[スタート]メニュー [プログラム(P)] [YAMAHA XGworks for SW1000XG]から[Wave Editor TWE取扱説明書]を選択すると開く、オンラインマニュアル(PDFファイル)をご参照ください。

NOTE PDFファイルをご覧になるためには、あらかじめAcrobat Reader (アクロバットリーダー) をインストールしておく必要があります。Acrobat Readerをインストールするには、本パッケージに付属のCD-ROMの中に入っているAcrobatフォルダがありますので、そこに入っている ar32j30a.exe をダブルクリックしてください。

Acrobat® Reader copyright© 1987 - 1996 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.
AdobeおよびAcrobatはアドビシステムズ社の商標です。

NOTE Wave Editor TWE自体は、拡張子.wavのウェーブファイルのほか、AIFFファイルも扱えますが、XGworks上ではAIFFファイルは扱えません。

SW1000XG Mixer

オーディオパートの専用ミキサーが追加されました。各オーディオパートごとのボリューム調節やパン、エフェクトのコントロールなどを手軽に行えます。

外部オーディオ入力(A/Dインプット)端子からSW1000XGサウンドカードに入力されるオーディオ信号パート(Inputの欄にA1またはA2と表示)および、XGworksのウェーブトラックからSW1000XGサウンドカードに入力されるオーディオ信号パート(Inputの欄にP1～P12と表示)に対して、スライダやノブを動かしてボリュームやエフェクトを設定することができます。ここでの操作は、セットアップダイアログ(後述P.36)で設定したMIDI出力ポートを經由してサウンドカードにMIDI送信されるので、オーディオパートの音量/音色の変化をリアルタイムでモニター(試聴)することができます。

SW1000XGミキサーでの設定は、ソングの任意のロケーションにシステムエクスクルーシブデータのイベントとして入力することができます。また、ソングとは別にSW1000XGミキサーパラメーターファイル(拡張子.SWM)として保存することもできます。



NOTE あらかじめ、プラグインソフトSW1000XG Mixerをインストールしておく必要があります。SW1000XG Mixerのインストールは、XGworks for SW1000XGのインストール時に同時に行うことができます。詳しくは前述(P.20)をご参照ください。

SW1000XG Mixerの開き方

メニューバーの[プラグイン(P)]メニューをクリックし、プルダウンメニューから[SW1000XG Mixer(S)]を選択します。

各部の名称と機能



タイトルバー

タイトルバーには、アプリケーションアイコン、アイコン化(最小化)ボタン、最大化ボタン、クローズボタンがあります。タイトルバーについて詳しくは、XGworks V2.0取扱説明書のP.251をご参照ください。

ツールバー



① オープンボタン

[ファイルを開く]ダイアログを開きます。SW1000XG Mixerの設定を記録しているSW1000XG Mixerパラメーターファイル(.SWM)を選択し、SW1000XG Mixer上に読み込むことができます。エディット中のパラメーター設定が保存されていない場合は、ファイルを読み込む前に、現在エディット中のパラメーター設定の保存確認のダイアログを開きます。メニューバーの[ファイル(F)]メニューにある[SW1000XG Mixerパラメータファイルを開く(O)]コマンドと同じ機能です。

[NOTE] [ファイルを開く]ダイアログの操作方法は、ファイルの種類のボックスでSW1000XG Mixerパラメーターファイル(拡張子.SWM)が指定されていること以外は、ソングファイルを開く操作と同様です。[ファイルを開く]ダイアログについて詳しくは、XGworks V2.0取扱説明書のP.252をご参照ください。

② 保存ボタン

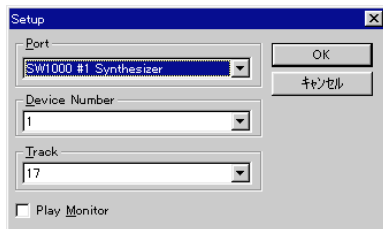
エディット中のSW1000XG Mixerパラメーターファイルを上書き保存します。SW1000XG Mixerの設定がパラメーターファイルとして初めて保存される場合は、[ファイル名を付けて保存]ダイアログを開きます。メニューバーの[ファイル(F)]メニューにある[SW1000XG Mixerパラメータファイルを保存(S)]コマンドと同じ機能です。

[NOTE] [ファイル名を付けて保存]ダイアログの操作方法は、ファイルの種類のボックスでSW1000XG Mixerパラメータファイル(拡張子.SWM)が指定されていること以外は、ソングファイルを保存する操作と同様です。[ファイル名を付けて保存]ダイアログについて詳しくは、XGworks V2.0取扱説明書のP.253をご参照ください。

③ 設定ボタン

Setupダイアログを開きます。SW1000XG Mixerでのパラメーター設定を送信するMIDI出力ポートやデバイスナンバーなどを選ぶことができます。メニューバーの[設定(U)]メニューにある[SW1000XG Mixer設定(S)]コマンドと同じ機能です。

セットアップダイアログ



Port ボックスをクリックすると表示されるドロップダウンリストの中からMIDI出力ポートを選択します。ここで選択したポートに対応したXG音源のオーディオパートに対して、SW1000XG MixerでのコントロールがMIDI情報として送信されます。

NOTE SW1000XGサウンドカードをお使いの場合は、Portで「SW1000 #1(または#2) Synthesizer」を選択します。

Device Number 接続しているXG音源に、システムエクスクルーシブデータ(この場合、SW1000XG Mixerの操作情報)を送信するために設定する番号です。この番号をお使いのXG音源のデバイス番号と同じものに合わせます。

Track ボックスをクリックすると表示されるドロップダウンリストの中から、SW1000XG Mixerの設定をソングに入力する際の、トラックを選択します。後述の挿入ダイアログ(P.37)の「Track」と連動します。

Play Monitor ボックスをクリックしてチェックすると、ソングに入力されているSW1000XG Mixerのパラメーター設定のイベントを読み取って、リアルタイムでSW1000XG Mixerのノブやスライダーを動かすことができます。チェックを外すと、ソング中のイベントを読み取りません。

NOTE SW1000XG Mixerのパラメーター設定のイベントは、挿入ダイアログ(後述P.37)を使ってソングに挿入することができます。

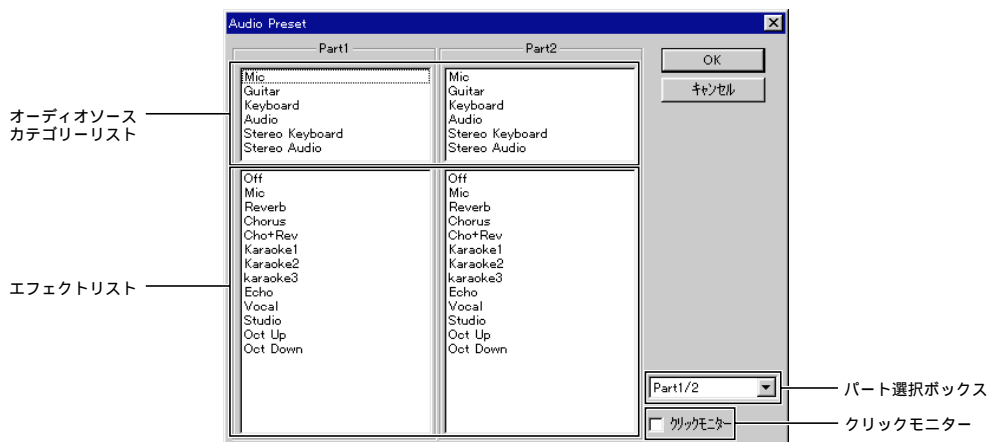
クリック操作で各項目を設定し、[OK]をクリックするとダイアログが閉じ、設定が有効となります。操作を中止する場合には[キャンセル]をクリックすると、もとの設定のままでダイアログを閉じます。

④ オーディオプリセット設定ボタン

オーディオプリセットダイアログを開きます。各オーディオパートに対して、適切なエフェクトを選択することができます。

NOTE ここで設定するエフェクトはオーディオパート独自のもので、XG音源のリバース、コーラス、バリエーションエフェクトとは別のものです。

オーディオプリセットダイアログ



オーディオソースカテゴリリスト

オーディオ信号のカテゴリが表示されます。オーディオ信号に適切なエフェクトをかけるために、まずこのリストでカテゴリを1つクリックして選択します。カテゴリを選ばないと、下のエフェクトリストに、選ばれたカテゴリに属するエフェクト名がリスト表示されず、各パートにつき、それぞれ次の6つのカテゴリが用意されています。

Micボイカルや生楽器に適したカテゴリです。
Guitarエレキギターサウンドに適したカテゴリです。
Keyboardシンセサイザーなどのキーボードサウンド(モノラル)に適したカテゴリです。
Audio一般的なライン入力(モノラル)に適したカテゴリです。
Stereo Keyboard...シンセサイザーなどのキーボードサウンド(ステレオ)に適したカテゴリです。
Stereo Audio一般的なライン入力(ステレオ)に適したカテゴリです。

エフェクトリスト

オーディオソースカテゴリリストで選ばれているカテゴリに属するエフェクト名が、表示されます。リストの中から使用したいエフェクトをいずれか1つクリックして選択します。なお、表示されるエフェクトはカテゴリによって異なります。

パート選択ボックス

クリックすると表示されるドロップダウンリストの中から、オーディオソースカテゴリリストおよびエフェクトリストのパートナンバーを選択します。一度に2パートずつ表示させることができます。

NOTE 全部で1~14パートまで選択できますが、SW1000XG Mixerのいちばん左側のオーディオパートユニット(後述P.38)から順にパート1、パート2、パート3...と続き、いちばん右側のパートユニットがパート14になります。

クリックモニター

ボックスをクリックしてチェックすると、エフェクトリストでエフェクトを選択した瞬間に、その効果を試聴することができます。

クリック操作で各項目を設定し、[OK]をクリックするとダイアログが閉じ、設定が有効となります。操作を中止する場合は[キャンセル]をクリックすると、もとの設定のままダイアログを閉じます。

NOTE 外部オーディオ(A/Dインプット)端子からSW1000XGサウンドカードに入力されるオーディオ信号(パートユニットのInputの欄にA1またはA2と表示されているパート)に対して、このダイアログでエフェクトをかけてXGworksのウェーブトラックに録音しても、オーディオ信号はエフェクトと一緒に録音されません。つまり、録音されたウェーブトラックを再生しても、エフェクトがかかっていない「素の」音しか聞こえません。
録音したときと同じエフェクト効果を出すためには、XGworksのウェーブトラックから出力されるオーディオ信号パート(Inputの欄にP1~P12と表示されているパート)に対しても、同じようにエフェクトを設定する必要があります。

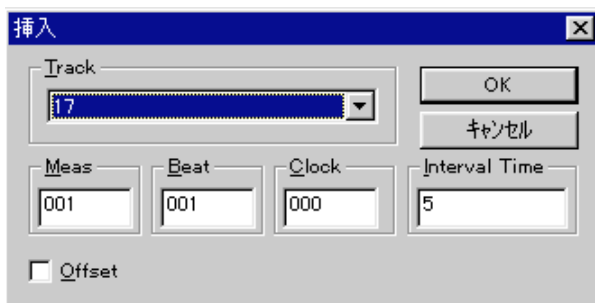
⑤ 送信ボタン

このボタンをクリックすると、SW1000XG Mixerでの設定情報を、セットアップダイアログ(P.36)で設定したMIDI出力ポートを経由して、XG音源(サウンドカード)にMIDI送信します。

⑥ 挿入ボタン

挿入ダイアログを開きます。SW1000XG Mixerでのパラメーター設定をシステムエクスクルーシブデータのイベントとしてソングの中に挿入/入力することができます。

挿入ダイアログ



Track.....挿入トラックを選択します。セットアップダイアログ(P.36)の「Track」と連動しています。
Meas.....挿入する小節を指定します。
Beat.....挿入する位置を拍単位で指定します。
Clock.....挿入する位置をクロック単位で指定します。
Interval Time.....複数のイベントを挿入する場合のイベントとイベントの挿入間隔をクロック単位で指定します。
Offset.....ボックスをクリックしてチェックマークを付けておくと、SW1000XG Mixerの初期設定と異なるイベントパラメーター設定のみをイベントとしてソングに挿入します。同じ値のイベントを繰り返し挿入してソングデータが重くなってしまうのを避けることができます。

NOTE Offsetでイベントをソングに挿入する場合、SW1000XG Mixerの初期設定のイベントをあらかじめソングの先頭などに入力しておく必要があります。

挿入先のトラックをTrackのボックスで指定した後、ロケーションとなる位置をMeas(小節)/Beat(拍)/Clock(クロック)のボックスで設定し、[OK]をクリックします。現在のエフェクト、パン、ボリュームの設定がイベントとして、指定したトラックの指定したロケーションに挿入/入力されます。操作を中止する場合には、[キャンセル]をクリックします。イベントの挿入は実行されずにダイアログを閉じます。

⑦ レコードボタン

このボタンをクリックすると、(現在のロケーションから)ソングの再生が始まると同時に、SW1000XG Mixerの各パラメーター(ノブやスライダー)操作のレコーディングが始まります。もう一度このボタンをクリックすると、ソングの再生とパラメーター操作のレコーディングは停止します。

レコーディング時に動かした各ノブやスライダーの動きはすべて記録されます。パンやボリュームなどを連続的に変化させる場合に、このレコーディング機能を使うと、なめらかな値の変化が作れるので大変便利です。

オーディオパートユニット

オーディオパートのボリューム、パン、エフェクトなどのノブやスライダーが、それぞれパートごとに縦に並んでセットされています(左からパート1、パート2、パート3...の順で、いちばん右がパート14です)。各操作子はクリックまたはドラッグで簡単にコントロールすることができます。

各ノブやスライダーを動かす場合、コンピュータキーボードの[Ctrl]を押しながら操作(クリックまたはドラッグ)すると、外部オーディオ入力(A/Dインプット)端子からSW1000XGサウンドカードに入力される全パート(Inputの欄にA1またはA2と表示)またはXGworksウェーブトラックからSW1000XGサウンドカードに入力される全パート(Inputの欄にP1~P12と表示)のノブやスライダーを連動して動かすことができます。たとえば、この操作でP1パートのパンノブを左方向に回すと、同時にP2~P12の全パートのパンノブも同様に左方向に同じ値分だけ回ります。

また、コンピュータキーボードの[Ctrl]と[Shift]キーを両方押しながら操作(クリックまたはドラッグ)すると、外部オーディオ入力(A/Dインプット)端子からSW1000XGサウンドカードに入力される全パート(Inputの欄にA1またはA2と表示)またはXGworksのウェーブトラックからSW1000XGサウンドカードに入力される全パート(Inputの欄にP1~P12と表示)のノブやスライダーを連動して逆方向に動かすことができます。たとえば、この操作でP1パートのパンノブを左方向に回すと、同時にP2~P12の全パートのパンノブが右方向に同じ値分だけ回ります。

さらに、コンピュータキーボードの[Ctrl]と[Alt]キーを両方押しながら操作(クリックまたはドラッグ)すると、ステレオペアになっている2つのパートのノブやスライダーを連動して動かすことができます。

NOTE Inputの欄に表示されている、A1とA2、P1とP2、P3とP4、P5とP6、P7とP8、P9とP10、P11とP12が、それぞれステレオペアのパートとなります。

NOTE 各ノブやスライダーの値は、コンピュータキーボードを使ってコントロールすることもできます。コンピュータキーボードの[Home]/[Page Up]キーで値をインクリメントする(値を増やす)ことができ、[End]/[Page Down]キーで値をデクリメントする(値を減らす)ことができます。

NOTE SW1000XG Mixerを開いたときには、必ず各ノブやスライダーにはそれぞれの初期値が設定されるようになっています。各ノブやスライダーを動かして他の値を設定した後でも、各ノブやスライダーをそれぞれダブルクリックすることにより、それぞれの初期値に戻すことができます。



① レベルメーター

Input(②)でA1またはA2と表示されているパートにおける、オーディオ入力のレベルを表示します。

NOTE システムセットアップダイアログ(P.28)で選択しているWave Inデバイスによって、オーディオ入力のレベル表示は以下のようになります。

SW1000 #1 WAVE IN...SW1000XGサウンドカードの外部オーディオ入力(A/Dインプット)のみのレベルを表示
 SW1000 #2 WAVE IN...A/Dインプット + XGworksのウェーブトラック + サウンドカードのAWM2音源サウンドのミックスされたレベルを表示

② Input(インプット)

各パートのオーディオ信号の種類を設定します。Inputの番号表示ボックスをダブルクリックすると、インプットカテゴリダイアログが表示されます。

インプットカテゴリダイアログ



Part1 ~ 14の各ボックスをクリックすると開くドロップダウンリストの中から、そのパートでコントロールするオーディオ信号の種類を選択します。

「Analog」とは、外部オーディオ入力(A/Dインプット)端子からSW1000XGサウンドカードに入力されるオーディオ信号のことです。最大2パートまで割り当てることができます。

「Pci」とは、XGworksのウェーブトラックからSW1000XGサウンドカードに入力されるオーディオ信号のことです。最大12パートまで割り当てることができます。

各項目を設定し、[OK]をクリックするとダイアログが閉じ、設定が有効となります。操作を中止する場合には[キャンセル]をクリックすると、もとの設定のままダイアログを閉じます。[標準設定]をクリックすると、SW1000XG Mixerの各パートの割り当てが標準設定になります。

NOTE 通常は、標準設定でお使いください。標準設定の場合、Part1=Analog1、Part2=Analog2、Part3=Pci1、Part4=Pci2...Part14=Pci12となります。

NOTE 標準設定以外の場合、Windows標準のミキサー(タスクバーのスピーカーアイコンをダブルクリックして起動する「ボリュームコントロール」)で各オーディオパートのボリュームやステレオ定位を正しくコントロールできなくなります。

③ ドライノブ(Dry)

ドライ信号のセンドレベルをパートごとに設定することができます。ドライノブをドラッグして右に回すほど、センドレベルを大きくすることができます。ノブを一番左に回した状態では音が鳴りません。

④ リバースノブ(Rev)

リバースの深さをパートごとに設定することができます。リバースノブをドラッグして右に回すほど、リバース効果を深くすることができます。ノブを一番左に回した状態ではリバースの効果は0になります。

NOTE オーディオ信号の音色によって、リバースのかかり具合が異なる場合があります。

⑤ コーラスノブ(Cho)

コーラスの深さをパートごとに設定することができます。コーラスノブをドラッグして右に回すほど、コーラス効果を深くすることができます。ノブを一番左に回した状態ではコーラスの効果は0になります。

NOTE オーディオ信号の音色によって、コーラスのかかり具合が異なる場合があります。

⑥ バリエーションノブ(Var)

バリエーションエフェクトの深さをパートごとに設定することができます。バリエーションノブをドラッグして右に回すほど、バリエーションエフェクト効果を深くすることができます。ノブを一番左に回した状態ではバリエーションエフェクトの効果は0になります。

NOTE バリエーションエフェクトとは、XG音源で採用されているエフェクト機能で、リバースやコーラス以外にディレイやロータリースピーカー、オートパン、アンプシミュレーター、オートワウなど多彩なエフェクトプログラムを持っています。

NOTE 音色によって、バリエーションエフェクトのかかり具合が異なる場合があります。

⑦ ミュートボタン

各ボタンをクリックしてオン(反転表示)にすることにより、各パートの再生音をミュート(消音)することができます。もう一度ボタンをクリックしてオフにすると、通常の再生に戻ります。なお、複数のパートを同時にミュートすることもできます。

⑧ パンノブ(Pan)

各パートのステレオ定位を設定することができます。パンノブをドラッグして右に回すと、そのパートの再生音の定位は右になります。左に回すとそのパートの再生音の定位は左になります。

⑨ ボリュームフェーダー

各スライダーをドラッグして上下に動かすことにより、各パートのボリュームを設定することができます。

マスターボリュームユニット



① レベルメーター

全体のボリュームレベルを表示します。

NOTE システムセットアップダイアログ(P.28)で選択しているWave Inデバイスによって、レベル表示は以下のようになります。

SW1000 #1 WAVE IN: 何も表示しない。

SW1000 #2 WAVE IN: A/Dインプット+XGworksのウェーブトラック+サウンドカードのAWM2音源サウンドのミックスされたレベルを表示。

② マスターフェーダー

ドラッグして上下に動かすことにより、全体のボリュームを設定することができます。

NOTE システムセットアップダイアログ(P.28)でWave InデバイスとしてSW1000 #2 WAVE INを選択している場合、A/Dインプット+XGworksのウェーブトラック+サウンドカードのAWM2音源サウンドのミックスされたレベルを設定することができます。これらをまとめてXGworksのウェーブトラックに録音(ミックスダウン)する場合、マスターフェーダーは録音レベルの調節に使うことができます。

SW1000XGサウンドカードの仕様

動作環境

CPU: Pentium/166MHz以上
メモリ: 32MB以上
ハードディスク: 20MB以上
OS: Windows95
PCI拡張スロット
CD-ROMドライブ(ソフトウェアのインストール用)
その他周辺機器(マウス、オーディオスピーカー、ヘッドフォン)

音源

AWM2音源(SWP30)

音色数: 1267ノーマルボイス、46ドラムボイス
最大同時発音数: 64(AWM2ウェーブテーブル)
マルチティンバー: 32パート

互換性(演奏モード)

XG: 1,074ノーマルボイス、36ドラムボイス
TG300B: 614ノーマルボイス、10ドラムボイス

エフェクト

リバーブ(12タイプ)、コーラス(14タイプ)、バリエーション(70タイプ)、インサーション1/2(43タイプ/43タイプ)、5バンドマルチEQ(4タイプ)

デジタルオーディオ

ウェーブフォーム再生デバイス×6(6ステレオファイルまたは12モノファイルを再生可能)
ウェーブフォーム録音デバイス×2

接続端子

外部オーディオ入力(A/Dインプット)端子
Line Out L/R(右/左)端子
Digital Out 端子(S/PDIF)
MINI DIN 6ピン端子(MIDI接続用)
プラグインボード(PLG100シリーズ)接続コネクタ
デジタルミキシングカード(DS2416)接続コネクタ

その他

寸法: 198mm x 21.6mm x 127mm
重量: 140g

*仕様および外観は改良のため予告無く変更することがあります。

System Exclusive	x		o	*3
: <input type="checkbox"/> Song Pos. <input type="checkbox"/>	x <input type="checkbox"/>		x <input type="checkbox"/>	
: <input type="checkbox"/> Song Sel. <input type="checkbox"/>	x <input type="checkbox"/>		x <input type="checkbox"/>	
: Tune	x		x	
System : <input type="checkbox"/> Clock <input type="checkbox"/>	x <input type="checkbox"/>		x <input type="checkbox"/>	
Real Time: Commands	x		x	
Aux : All Sound Off <input type="checkbox"/>	x <input type="checkbox"/>		o(120,126,127) <input type="checkbox"/>	
: Reset All Cntrls <input type="checkbox"/>	x <input type="checkbox"/>		o(121) <input type="checkbox"/>	
: Local ON/OFF <input type="checkbox"/>	x <input type="checkbox"/>		x <input type="checkbox"/>	
Mes- : All Notes OFF <input type="checkbox"/>	x <input type="checkbox"/>		o(123-125) <input type="checkbox"/>	
sages : Active Sens <input type="checkbox"/>	x <input type="checkbox"/>		o <input type="checkbox"/>	
: Reset	x		x	
Notes:	*1 receive if switch is on. <input type="checkbox"/> *2 m is always treated as "1" regardless of its value. <input type="checkbox"/> *3 receive if exclusive switch is on.			

o : Yes
x : No

Mode 1 : OMNI ON , POLY Mode 2 : OMNI ON ,MONO
Mode 3 : OMNI OFF, POLY Mode 4 : OMNI OFF,MONO

故障かな？と思ったら

「音が出ない」「音色がおかしい」などといった状況になってしまったら、サウンドカード本体の故障を疑う前に次の項目をチェックしてください。多くの場合、解決の糸口が見つけれられるでしょう。
それでも直らないときは、お買い上げ店、またはヤマハCBXインフォメーションセンター(P.11)、巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

XG/GMマークのついたソングデータが正しく再生されない

- ・ Mute Lock、Audio Lock、EQ Lock、Output Select Lockの各設定がoffに設定されていますか？(MIDIデータフォーマット<付表2-2>参照)
- ・ Rcv System On Message、Rcv Bank Selectの各設定がonに設定されていますか？(MIDIデータフォーマット<付表2-2>参照)
- ・ 演奏モード(XGモードまたはTG300Bモード)は正しく設定されていますか？(P.25)

TG300で作ったソングデータが正しく再生されない

- ・ TG300とフィルターやエフェクトなどの設定が異なるため、鳴り方が異なる場合があります。

音が出ない

- ・ 各装置(スピーカー、ヘッドホン、デジタルミキシングカードなど)との接続は正しくなされていますか？(P.13)
- ・ ボリュームが下がっていませんか？(外部スピーカー、Windows標準の「ボリュームコントロール」ミキサーなど)
- ・ ミュート/ソロの設定になっていませんか？(XGworksのトラックビューウィンドウなど)
- ・ MIDIアプリケーションのデータにボリュームやエクスプレッションの間違ったデータが入っていませんか？
- ・ MIDIドライバが正しくインストールされていますか？(P.17)また、正しいMIDIデバイスを選択していますか？(P.28、P.30)
- ・ 音の出ないパートが、DS2416にインディビデュアルアウトされていませんか？(P.16)

音が歪む/音が小さい

- ・ アンプや再生装置の音量調整はうまくできていますか？
- ・ 不要なエフェクトが設定されていませんか？

音量が小さい

- ・パートコントロールのボリュームやエクスプレッションが下がっていませんか？
- ・パートエディットのベロシティセンスの設定は間違っていないですか？
- ・MIDIボリューム情報を受けていませんか？

A/Dインプットの音が歪む/音が小さい

- ・入力ソースの選択は間違っていないですか？(P.36)

全体にエフェクトがかからない

- ・ SEND/リターンは上がっていますか？

一部のパートのエフェクトがかからない

- ・パートや、ドラムパートのインストごとのSENDレベルは上がっていますか？

音色がおかしい

- ・バンクセレクト/プログラムチェンジの設定は間違っていないですか？

音程がおかしい

- ・マスターチューンやトランスポーズ、ノートシフトの設定は間違っていないですか？

音が途切れる

- ・最大同時発音数は64音を超えていませんか？(P.25)
複数のパートで同じチャンネルを指定している場合は、一つのキーオンで複数のパートが同時に発音されますので、ご注意ください。

MIDIバルクデータがうまく受信できない

- ・デバイスナンバーの設定は間違っていないですか？
- ・データの保存時にダンプリンターバルタイムを短く設定していませんか？

WAVE再生音が出力されない

- ・ Windows標準の再生ソフト(サウンドレコーダーなど)で再生する場合、マルチメディアのプロパティ(オーディオ)で指定した出力先(優先するデバイス)にウェーブデータが出力されます。
ただし、指定できる出力先の対象は、「優先するデバイス」のドロップダウンリスト上で見ることができるデバイスのうち、上から8つめまでのデバイスに限られます。9つめ以降のデバイスを指定すると、リストの1番上のデバイスに出力されます。
「他のサウンドカード」+「DS2416」+「SW1000XG」という組み合わせのように、トータルデバイス数が9つ以上になる状態で、かつ「他のサウンドカード」のデバイスが「優先するデバイス」のドロップダウンリストの1番上に表示されている場合は、DS2416の8番目の出力を指定すると、「他のサウンドカード」のデバイスに出力されてしまいます。

DOSゲームの音がおかしい

- ・ SW1000XGは、Windows95におけるDOSゲームの動作保証はしていません。

SW1000XGミキサーのコントロールが利かない

- ・ セットアップダイアログで、ポートが正しく設定されていますか？SW1000XGサウンドカードをお使いの場合、「SW1000 #1 (または#2) Synthesizer」を選択する必要があります(P.36)。

SW1000XGミキサーの偶数オーディオパート(A2、P2、P4など)のコントロールが利かない

- ・ 対応する奇数オーディオパート(A1、P1、P3など)がステレオモードに設定されていませんか？すなわち、XGworksのXGエディターウィンドウ(Audioのパートユニットで[DETAIL]ボタンをクリックすると開くプロパティダイアログ)で、Mono/Stereo ModeがStereoに設定されていませんか？ステレオモードでは、対応する奇数オーディオパートからのみコントロール可能です。

SW1000XGが動作しない

- ・ SW1000XGがPCIバススロットに正しく挿入されていますか？
- ・ 古いタイプのコンピュータではPCIスロットがバスマスタとして機能せず、そのようなスロットにSW1000XGを取り付けても正しく動作しません。詳細はコンピュータに付属の取扱説明書をご参照ください。
- ・ PCIカードの中にはSW1000XGとコンフリクト(競合)を生じるものがあります。その場合、競合しているカードを取り外すか、SW1000XGとスロットを入れ替えてみてください。OSR2以前のWindows95をお使いの場合で解決しない場合は、IRQの設定を変えるか、競合しているカードを取り外してください。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

保証書

本機には保証書がついています。保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げ日から1年間です。

保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造日切後8年です。

持込み修理のお願い

まず本書の「故障かな? と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ本機をご持参ください。

製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点 (修理受付および修理品お持込み窓口)

北海道サービスセンター	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50	ヤマハセンター内	TEL(011)512-6108
仙台サービスセンター	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7	仙台卸商共同配送センター3F	TEL(022)236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184		TEL(044)434-3100
浜松サービスセンター	〒435-0048	浜松市上西町911	ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL(053)465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中区玉川町2-1-2	ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL(052)652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16	ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL(06)6877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7	(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL(087)822-3045
広島サービスセンター	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14		TEL(082)874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4		TEL(092)472-2134
[本社]カスタマーサービス部	〒435-0048	浜松市上西町911	ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL(053)465-1158

デジタル楽器に関するお問い合わせ窓口

EM北海道営業所	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50	ヤマハセンター内	TEL(011)512-6113
EM仙台営業所	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10		TEL(022)222-6147
EM東京事業所	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11		TEL(03)5488-5476
EM関東営業所	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11		TEL(03)5488-5447
EM名古屋営業所	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28		TEL(052)201-5199
EM大阪事業所	〒542-0081	大阪市中央区南船場3-12-9	心斎橋プラザビル東館	TEL(06)6252-5231
EM広島営業所	〒730-8628	広島市中区紙屋町1-1-18	ヤマハビル	TEL(082)244-3749
EM九州営業所	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4		TEL(092)472-2130
電子楽器事業部 営業部	〒430-8650	静岡県浜松市中沢町10-1		TEL(053)460-2432

所在地・電話番号などは変更されることがあります。

ホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/>

ニフティサーブ

「GO FMIDIVA」コマンドでFMIDIVAに入ると、ヤマハデジタル楽器およびDTM製品のフォーラムがございます。

電子会議：

- #16...ヤマハSynth & CBX情報ボード
- #17...ヤマハSynth & CBXユーザーズカフェ
- #18...ヤマハSynth & CBX相談室

データライブラリー：

- #8...ヤマハ/デジタル CBX

MEMO

MEMO

MEMO

ヤマハ株式会社